

あおもり産木材地産地消ガイドブック 2024

青森の木と暮らす

Made in Aomori House

Special Feature

青森県内初の
3階建て木造校舎
六戸学園

第17回 あおもり産木材活用
建築コンテスト作品集

Made in Aomori House

県産材地産地消ビルダー実例13

青森県森林組合連合会

【連合会の概要】

青森県森林組合連合会は、
県内の森林所有者で組織する森林組合によって組織された団体で、
森林の整備や保護、木材の販売や生産など森林・林業に関わる仕事を通じて、
地域の森づくりや森林経営への貢献を目指しています。



青森県森林組合連合会 代表理事会長 須藤 廣明

〒030-0813 青森市松原一丁目16-25 TEL017-723-2657 FAX017-723-1505





AD PAGE

協賛企業・団体

Cover Photo

表紙写真：2024 年度 第 17 回 あおもり産木材活用建築コンテスト

【非住宅新築部門】木づかい大賞（知事賞）受賞作品

株式会社 建築工房 青森設計室「一般社団法人 日々木の森」

CONTENTS

04

Special Feature

〔特集〕六戸町立義務教育学校

六戸学園

08

AOMORI WOOD ARCHITECTURE CONTEST 2024

2024年度 第17回

あおもり産木材活用建築コンテスト作品集

19

Made in Aomori House

県産材地産地消ビルダー実例 13

20 株式会社 大山建工

24 株式会社 ヤマノアーキデザイン

28 企業組合 県木住

32 有限会社 キーポイントホーム

36 株式会社 日本の窓

40 1952HINOKIYA 一級建築士事務所／有限会社 赤穂工務店

44 1952HINOKIYA 一級建築士事務所／有限会社 家口建設

48 株式会社 木組工務店（シェアオフィス BLUE）

52 株式会社 木組工務店（青森ねぶたサウナ）

54 株式会社 木組工務店（サードプレイスミサワ）

56 株式会社 木組工務店（みんなのいばしょ あご〜る）

58 有限会社 林工務店

62 有限会社 岩木建設

66

Aomori Wood Fan Event

チーム県産材「縁むす日」

70

Aomori Wood Reform Event

株式会社 今井産業「2024 住まいとお庭のリフォームフェア」

74

Aomori Wood Story_no.1

県産材ストーリー [第 1 回] 天然青森ヒバ造りの五重塔

表2 青森県森林組合連合会

76 株式会社 小倉内装

77 NICOSTOCK Furniture

78 青森県木材協同組合

79 青森県製材 JAS 認証工場

表3 青森県優良住宅協会

表4 株式会社 北電

Special Feature

[特集]

六戸町立義務教育学校

六戸学園



2025年4月開校、
青森県内初の3階建て木造校舎
9学年の児童生徒たちが共に過ごす
ぬくもりある学び舎

六戸町では、町内にある小学校3校（六戸小、開知小、大曲小）、
中学校2校（六戸中、七百中）を1校に再編し、
9年間の小中一貫教育を行う「六戸町立義務教育学校六戸学園」を2025年4月に開校します。
青森県内の義務教育学校は、六戸学園が初。

文・写真=佐藤 史隆 イメージパース=八洲建築設計事務所 資料協力=六戸町
text/photo:Fumitaka Sato perspective drawing:YASHIMA Architecture & Engineers Office. Material:Rokunohe Town



六戸町立義務教育学校六戸学園完成イメージ。(道路側外観)

木造3階校舎に 全国の建築関係者も注目

六戸学園は、建造物としても大きな注目を集めており、木造3階建て校舎は国内に数例しかなく、県内では初めて。2024年6月11日に実施された構造躯体見学会には、全国の建築関係者も多数訪れました。校舎の設計監理は(株)八洲建築設計事務所、施工は日本国土開発・佐藤建設工業・中屋敷建設特定建設工事共同企業体が担当しました。



2024年6月11日に実施された構造躯体見学会。県内自治体職員や全国の建築関係者など約360名が参加した。

校舎の木材の約9割に県産材を使用



2024年6月の構造躯体見学会の様子。大きな柱の前や梁がめぐらされた天井の下で担当者による説明が行われた。

校舎はA、B、C、D棟（木造3F建て）、屋内運動場のE棟（鉄骨造、3F建て）、図書館のT棟（木造、一部2F建て）などから構成されています。

校舎の延べ床面積は約1万5千平方メートルで、木造部分の延べ床面積は約1万3千平方メートル。木材は約9割が県産材で賄われています。木材使用量は2,343立方メートルでそのうち、地元の木材が使用されたLVL材（※1）が約87%を占めます。（LVL材の樹種内訳は、カラマツが993m³、スギが1,044m³）

耐火、耐震の対策も施され、耐火については木造箇所60分耐火仕様、3F建て校舎の耐震については、ラーメン構造（※2）とブレース構造（※3）の併用による耐震システムを採用。

（※1）LVL材（Laminated Veneer Lumber）：丸太をかつら剥きのように2～4mmにスライスした単板を、単板の繊維方向が平行になるように積層・接着した木質建材。加工しやすいことや、原木から製品化の過程での製品化率もCLT材や集成材より格段に高いことが特長。

（※2）ラーメン構造：柱と梁を剛で接合し、一体的に荷重を支える構造形式。

（※3）ブレース構造：ラーメン構造に斜材（ブレース）を配置して水平剛性を高める構造形式。



薄くスライスした単板を重ねて作られるLVL材。
校舎の木材は、青森県産材使用のLVL材が多くを占める。
（2024年6月の構造躯体見学会にて）



ラーメン構造を解説する展示。（2024年6月の構造躯体見学会にて）



校舎の大きな見どころのひとつとなる「大階段」。

校舎全体が、 木質構造を感じる空間

学園の象徴的な場所となるだろう「大階段」は、9つの学年の児童生徒たちが垣根を越えた交流ができるようにと設計されました。また多目的ホールを兼ねる長い廊下や、走ったり遊ぶこともできるバルコニーなどもあり、学校生活をより充実させてくれるはず。きっと卒業してからも、木材の存在感ともに記憶に残り続けることでしょう。

校舎は、2025年の春から9学年約850人の学校生活が始まります。学校統合により新しい環境となり、児童生徒たちには楽しみも不安もあるかもしれません。そんな中、この青森県産木材をふんだんにつかった校舎のぬくもりは、安心感を与えてくれるに違いありません。



児童生徒たちにさまざまな活用をしてもらおうと設置された多目的ホール。

DATA 施設概要

- 施設名：六戸町立義務教育学校六戸学園
- 構造及び階数：木造一部RC/S3階建て
- 延床面積：14,129.15㎡

- 建築主：六戸町
- 設計監理：株式会社 八洲建築設計事務所
- 構造設計：株式会社 ANDO Imagineering Group / AIG
- 施工：日本国土開発・佐藤建設工業・中屋敷建設 特定建設工事共同企業体

AOMORI WOOD ARCHITECTURE CONTEST 2024

2024年度
第17回

あおもり産木材活用 建築コンテスト 作品集

【非住宅新築部門】

▲ 木づかい大賞 ▲

株式会社 建築工房零 青森設計室

一般社団法人 日々木の森



【住宅新築部門】

▲ 木づかい賞 ▲

1952HINOKIYA一級建築士事務所・有限会社赤穂工務店

しろがね
白銀の家

【住宅リフォーム部門】

▲ 審査員特別賞 ▲

有限会社 林工務店

断熱リノベーション ～県産材を使った終の棲家～

つい すみか

【非住宅新築部門】

▲ 審査員特別賞 ▲

株式会社 木組工務店

シェアオフィス BLUE

【非住宅木質化部門】

▲ 木づかい賞 ▲

株式会社 堀江組

金毘羅山高徳院本堂・位牌堂・客殿・庫裡改築工事

【非住宅木質化部門】

▲ 木づかい賞 ▲

須藤大建築設計事務所

風除ーsekkaー

あおもり産木材活用建築コンテスト実行委員会

■構成員：青森県木材利用推進協議会／(一社)青森県建築士会／(一社)青森県建築士事務所協会／青森県木材協同組合／青森県森林組合連合会／
青森県森林整備事業協同組合／青森県国有林材生産協同組合／(公社)青森県林業会議／青森県建設組合連合会／(公社)日本建築家協会青森地域会／
青森県(建築住宅課・林政課) ■オブザーバー：東北森林管理局青森森林管理署、青森県優良住宅協会

第17回あおり産木材活用建築コンテスト 木づかい大賞は非住宅新築部門より 株式会社建築工房零 青森設計室が受賞。

文・写真＝佐藤 史隆
text/photo:Fumitaka Sato

令和6年12月19日、第17回あおり産木材活用建築コンテストの表彰式が青森県庁において開かれ、最高賞の木づかい大賞＜知事賞＞をはじめ、各部門の受賞者が表彰されました。

木づかい大賞＜知事賞＞は、非住宅新築部門応募作品から、青森市の株式会社建築工房零 青森設計室（作品名：一般社団法人日々木の森・十和田市）が選出。



宮下知事から青森ヒバ製の表彰状を受け取った
木づかい大賞の株式会社建築工房零 青森設計
室・福井素子さん（中央）、施主の一般社団法
人日々木の森・立崎文江さん（左）

住宅新築部門には、＜木づかい賞＞として八戸市の1952HINOKIYA 一級建築士事務所・有限会社赤穂工務店（白銀の家・八戸市）、住宅リフォーム部門には、＜審査員特別賞＞として、青森市の有限会社林工務店（断熱リノベーション～県産材を使った終の棲家・青森市）、非住宅新築部門には、＜審査員特別賞＞として三沢市の株式会社木組工務店（シェアオフィスBLUE・三沢市）、非住宅木質化部門には、＜木づかい賞＞として弘前市の株式会社堀江組（金毘羅山高徳院本堂・位牌堂・客殿・庫裡改築工事・弘前市）と青森市の須藤大建築設計事務所（「風除—sekka—」・青森市）が選ばれました。

今回の応募総数は14作品だった。（住宅新築部門4、住宅リフォーム部門2、非住宅新築部門3、非住宅木質化部門5）。

授賞式の冒頭、福士譲審査委員長が選考過程について報告を行い、「全部門において、提出書類やパネルを用いて5つの審査基準をもとに書類審査を行い、上位選定作品について現地審査を行った。その結果、木づかい大賞には非住宅新築部門から株式会社建築工房零 青森設計室の作品を選定。既存の母屋やカエデの木を活かした建物の配置や経年変化も考慮された県産材の使用を高く評価

した」と説明。木づかい大賞＜知事賞＞を受賞した株式会社建築工房零 青森設計室の福井素子取締役は、「このたびは、高い評価をいただき大変光栄です。これからも県産材を使いながら、お客さまの要望を叶えていきたいです」と感謝を述べました。

続いて各受賞者が、受賞作品への思いや喜びを語り、それを受けて宮下宗一郎知事は「県名に『森』がつくのは青森県だけです。今、森林を育み、次の世代につなぐことが極めて重要です。そして森の木が街で新しい建物になっていく。豊かな森に包まれているような青森県をつくっていききたい。皆さんの取り組みを宣伝し、知られていくことで、好事例となってもらいたいし、私も事例を発信していきます。これからは県産材活用にご協力をお願いします」と期待を込めました。

最後に実行委員会の齋藤渉会長が「本賞は、今年で17回目。コロナ禍直後の募集であること、資材価格が高騰していることなどから、はたして応募があるだろうかと危惧していましたが、この場を迎えることができました。ぜひ、皆さんには受賞作を自慢していただきたいです。自慢していただくことによって、青森県には、県産材を使った温かい空間に満ち満ちていると評判になればと。これからもご協力をお願いします。」と述べて、表彰式を締めくくりました。

また、表彰式終了後、受賞者らによる意見交換会が開かれました。この機会を通じて、関係者同士が交流を図ることで、県産材活用のさらなる発展につながればという趣旨のもと、初開催。受賞者による受賞作品の解説と、熱心な質疑応答が行われました。



受賞者記念撮影

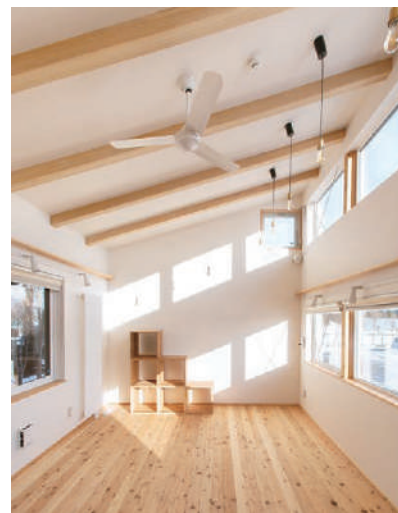
【非住宅新築部門】

木づかい大賞

株式会社 建築工房零 青森設計室
一般社団法人 日々木の森



ブルーベリー畑と古民家農園カフェがある敷地に、スイーツの工房棟と事務所棟、作業場棟を建築。既存の建物の近くに四季折々の景観を彩る大きなカエデの木があり、そのカエデの木と既存の建物との調和をコンパクトにまとめました。工房棟をカフェとカエデの木を囲むL字型の形状とし、奥に広がるブルーベリー畑や広がる空を眺められるよう建物を配置。また、カエデの木に面して設けた用途ごとの入り口を屋根が付いた一つの通路でまとめました。その通路からは、スイーツ作りの作業風景を見ることができます。外装は周辺環境に馴染む青森県産スギを、土台は耐久性に優れた青森ヒバを使用するなど、青森県産材もふんだんに使用。木の建築として統一感を持たせ、温もりある空間を創出しました。



講評

この作品は、古民家カフェの敷地内に新設された、工房棟と作業場棟です。工房棟は既存の建物とカエデを囲むようにL字型に配置され、周囲の農園の景色と調和するよう作業場が配置されています。内装・外装に地元のスギがふんだんに使用され温かみが感じられます。

既存の建物と調和を図った建物の配置や経年変化も考慮された県産材の使用が高く評価され、大賞に選出されました。(審査委員会)



DATA

建築場所：十和田市
構造及び階数：木造1階
延床面積：230.20㎡
木材使用量：55.14㎡
県産材使用量：54.04㎡
県産材使用率：98.0%

【応募者】

株式会社 建築工房零 青森設計室
青森市栄町2-4-2 1F Tel.017-718-1320

- 設計者／株式会社 建築工房零
- 施工者／株式会社 建築工房零
- 県産材調達先／有限会社 なかにし

受賞作品

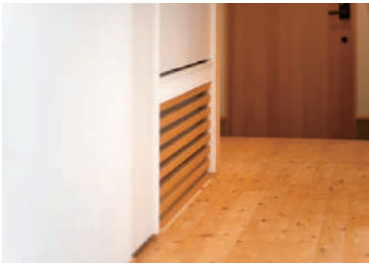
AOMORI WOOD ARCHITECTURE CONTEST 2024

Award Architect_02

【住宅新築部門】

木づかい賞

1952HINOKIYA一級建築士事務所・有限会社 赤穂工務店

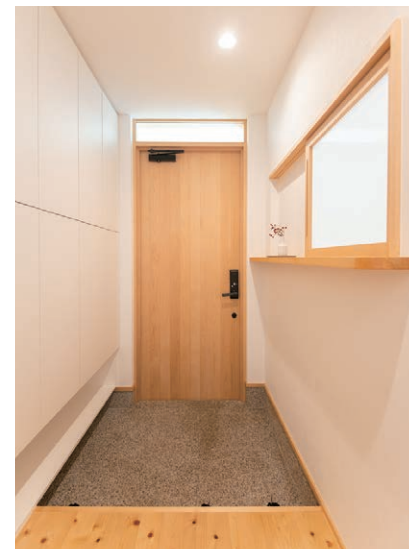
しろがね
白銀の家

青森県産材の特性を活かし、適材適所に使用した住宅。耐久性と防虫性に優れ、外部環境にも強い青森ヒバは、外壁の一部や玄関ドア、土台に使用。地域気候や風土に適した素材で耐久性と美観を両立しています。高い防湿効果と耐久性を活かすため、居室床や造作材にもヒバを用いました。一方、軽量で加工しやすく、やわらかく温かみある青森スギは、階段や造作材に多用しました。この住宅はZEH水準断熱性能を達成しながらも、設計をシンプルにし、一般家庭でも手の届く価格に。また、床下エアコン1台での全館空調システムを採用し、住宅全体を快適な温度に保ちます。地域風土に根ざした建築でありながら、現代の省エネルギー技術や快適性を両立させた設計です。

講評

この作品は、シンプルな外壁にヒバの板張りが印象的な住宅となっています。県産材の床材と床下エアコンの全館空調の組み合わせという新しい工法への挑戦も見受けられました。

ヒバの玄関やドア、室内の家具などは職人により造作され、技術の継承に努めている点や、回遊性が良く、適材適所による木の使い方が工夫されている点が評価され木づかい賞に選出されました。(審査委員会)



DATA

建築場所：八戸市
構造及び階数：木造2階
延床面積：129.93㎡
木材使用量：20.41㎡
県産材使用量：11.00㎡
県産材使用率：53.9%

【応募者】

1952HINOKIYA一級建築士事務所
八戸市柏崎三丁目8-13 Tel.0178-43-3848

有限会社 赤穂工務店

八戸市石手洗油久保6-10 Tel.0178-96-5510

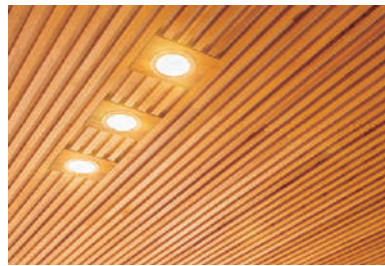
- 設計者／1952HINOKIYA一級建築士事務所
- 施工者／有限会社 赤穂工務店
- 県産材調達先／上北森林組合 他

【住宅リフォーム部門】

▲ 審査員特別賞 ▲

有限会社 林工務店

断熱リノベーション～県産材を使った終の棲家～



昭和58年（1983）築の鉄骨系ユニット工法の住宅を、県産材を適材適所に使いながら断熱改修。建て替えではなく改修工事にしたことで、ユニット工法の強みである丈夫さを活かしながら、気密性と断熱性を重点的に改善。鉄筋コンクリート造りの建物にも採用される吹付ウレタンを壁と天井に施工し、床には板状の断熱材を隙間なく再施工するなどして温熱環境を上げ、廊下や浴室も含めた1階全体の温度のバリアフリー化を実現しました。この住宅を終の棲家としたい施主の「木に囲まれた空間で暮らす」という願いも叶えるべく、デザインにも工夫を凝らしました。外装の一部と室内天井の仕上げ材には青森県産材を使用。木の良さを存分に感じられる住まいに生まれ変わりました。

講評

この作品は、昭和58年築の鉄骨系ユニット工法の住宅を断熱改修したものです。外壁の一部、リビングのリブ天井に県産のスギが使用されています。

廃番等の心配の無い県産材を使用することでメンテナンス性を向上させている点、既存の大手メーカーの住宅ユニットを建替えずに、県産材を使い新たな居住空間にリフォームした点が高く評価され審査員特別賞に選出されました。（審査委員会）



DATA

建築場所：青森市
構造及び階数：木造2階
リフォーム面積：45.98㎡
木材使用量：11.12㎡
県産材使用量：1.82㎡
県産材使用率：16.4%

【応募者】

有限会社 林工務店

青森市石江3丁目16-2 Tel.017-788-1713

■ 設計者／有限会社 林工務店

■ 施工者／有限会社 林工務店

■ 県産材調達先／丸重木材工業 株式会社

受賞作品

AOMORI WOOD ARCHITECTURE CONTEST 2024

Award Architect_04

【非住宅新築部門】

審査員特別賞

株式会社 木組工務店

シェアオフィス BLUE

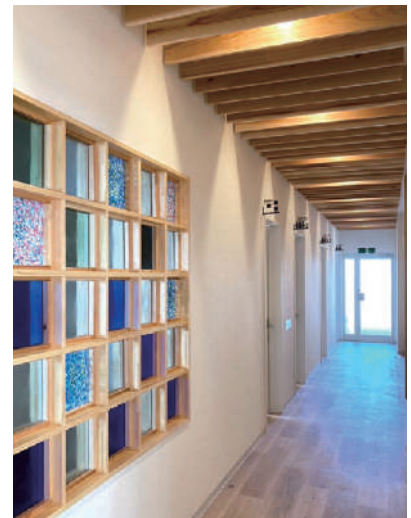


青森県産材と裂織、津軽びいどろ、ブナコなど青森の伝統工芸品を組み合わせた特徴的なシェアオフィス。さまざまな人と企業が集う場に、調和と発展の期待を込めています。共有スペースのカフェ空間は、大黒柱に青森ヒバを丸太のままで使用し、迫力と温かみを演出。この丸太材は、施主とともに大間まで足を運び選定したものです。優れた強度と防腐性を持つ青森ヒバを、構造部の柱、梁、外装にも使用。さらに耐久性、消臭性、意匠性を活かして内装の床やトイレの壁面にも使用するなど、適材適所に採用しました。また、人が行き交う廊下の天井部の吊下げパーテーションには青森県産スギを使い、木目と濃淡の美しさで空間を演出。アイデアを駆使して、機能美と快適さを追求しました。

講評

この作品は、複数の会社が入所できるシェアオフィスです。県産のヒバがふんだんに使用され、視覚や嗅覚が刺激されるとともに、津軽びいどろ、裂織など本県の工芸品も内装に積極的に使用され、彩り豊かな空間となっています。

建物正面での大胆なヒバの貼板、象徴的に使用されたヒバの柱の他、県産品の使用により郷土への愛着が感じられる点が評価され、審査員特別賞に選出されました。(審査委員会)



DATA

建築場所：三沢市
構造及び階数：木造2階
延床面積：834.72㎡
木材使用量：40.00㎡
県産材使用量：28.00㎡
県産材使用率：70.0%

【応募者】

株式会社 木組工務店

三沢市栄町三丁目140-832 Tel.0176-57-4547

- 設計者／アップルアーキテツツ株式会社
- 施工者／株式会社 木組工務店
- 県産材調達先／有限会社 島木材工業

【非住宅木質化部門】

木づかい賞

株式会社 堀江組

金毘羅山高徳院 本堂・位牌堂・客殿・庫裡改築工事



33の曹洞宗寺院が建ち並ぶ、弘前市「禅林街」にある「金毘羅山高徳院」の本堂、位牌堂、客殿、庫裡を改築。建築基準法という現代性と街の景観を損ねない伝統性を併せた木造建築が求められた状況で、主要構造部の柱と梁は鉄骨造、外内部の仕上げ化粧材を木材とし、現代性・伝統性の両方を備えた建築物としました。化粧材にはヒバ材を採用。見え隠れ部分の構造材はヒバのほかにアカマツを。そのほか、内部造作材の組み物は役物材を、そのほかの造作材はヒバ集成材を使用するなど、部位ごとに使用する材料を検討しました。不特定多数が参拝に来院する建物なので、スムーズな導線計画、風通しの良さ、自然素材の漆喰を内装に採用するなど居室内の快適性にも配慮しています。

講評

この作品は、歴史や景観を保持しながら寺院を建替えたものです。

鉄骨造を主構造としながらも外装部を仕上げ化粧材とすることで、木質化を図るとともに、伝統的な木造建築の様式を見事に再現しており、建築基準を遵守しながらも伝統を引き継ぐ新しい方法として評価され、木づかい賞に選出されました。(審査委員会)



DATA

建築場所：弘前市
構造及び階数：鉄骨造1階
延床面積：973.19㎡
木材使用量：137.24㎡
県産材使用量：31.57㎡
県産材使用率：23.0%

【応募者】

株式会社 堀江組

弘前市大字西茂森2丁目18-5 Tel.0172-35-2711

■ 設計者／有限会社 中央設計

■ 施工者／株式会社 堀江組

受賞作品

AOMORI WOOD ARCHITECTURE CONTEST 2024

Award Architect_06

【非住宅木質化部門】

木づかい賞

須藤大建築設計事務所

風除—sekka—



「廣田神社」の境内に寄り添うよう、日光や雨、雪を除ける授与所風除室を計画。神社は古来より木の文化に関係することから木造の風除室にこだわり、伝統工法である貫工法を採用し、木の存在感を演出しました。燃えしろや積雪、風圧、地震荷重を考慮した大断面の柱と貫には、八甲田山水系で伐採したスギ材を使用。廣田神社は八甲田山信仰があるので、八甲田山系の水で育ったスギ材を大切に使うように考えてのことです。廣田神社は夜間祭事も多く、膜と骨組みで構成された風除室は夜間、透過された光が参拝者を迎え入れ、ねぶた祭りを連想させます。風除空間にとどまらず、参拝者の休息場、授与所待合、庭を眺める借景など、さまざまな緩衝空間として利用される風除室となりました。

講評

この作品は、神社の社務所の前に木造の風除室を新設したものです。

貫工法で施工した木造の本体部分を鉄骨フレームを使った不燃性膜構造で覆っており、鳥居を模したスギ材が既存の社務所と相性が良くストーリー性がある点、防火規制が厳しい地域での木材利用の手法としても参考となる点が評価され、木づかい賞に選出されました。（審査委員会）



DATA

建築場所：青森市
構造及び階数：木造1階
延床面積：16.53㎡
木材使用量：3.16㎡
県産材使用量：3.16㎡
県産材使用率：100.0%

【応募者】

須藤大建築設計事務所

青森市大字羽白字沢田293番地E号

Tel.017-752-0815

- 設計者／須藤大建築設計事務所
- 施工者／株式会社 大室建築
- 県産材調達先／すみかの山

【住宅新築部門】 有限会社 林工務店

岩木山が眺める お日様と暮らすリビング階段の家

岩木山を望むロケーションを活かした家。「木の家に住みたい」という施主の思いを汲み、青森県産材をふんだんに使用しました。タテ張りの板が印象的な外観は、全面に青森スギを使用。青森スギは内部の造作にも多用し、職人が手作業でしつらえたリブ天井のほか、手すりや吹き抜けの床格子などにも採用。地場材に直接触れ合う機会を創出しました。土台には耐久性の高い青森ヒバを、吹き抜けには地元のアカマツを使うなど、県産材を適材適所に使っています。



DATA

建築場所：平川市
構造及び階数：木造2階
延床面積：112.61㎡
木材使用量：30.92㎡
県産材使用量：17.66㎡
県産材使用率：57.1%

【応募者】

有限会社 林工務店

青森市石江3丁目16-2 Tel.017-788-1713

- 設計者／若松設計
- 施工者／有限会社 林工務店
- 県産材調達先／丸重木材工業 株式会社

【住宅リフォーム部門】 株式会社 亜細亜建設

ずっと快適に、 住み継ぐ平屋の家

祖父がこだわって建てた築44年2階建ての住宅を、現代の生活に合わせて平屋にリノベーション。改修前の雰囲気が感じられるよう、和室と廊下を柱が露出する真壁に。真壁の柱には青森ヒバを使用し、あえて残した既存の柱との色合いを合わせました。また、建具や床材は無垢材を使用し、より温かみある空間に仕上がっています。屋根、外壁、基礎をSHS外張り断熱工法で断熱改修も。さらに耐震補強も行い、性能向上住宅となったことも特徴です。



DATA

建築場所：青森市
構造及び階数：木造1階
リフォーム面積：208.68㎡
木材使用量：9.93㎡
県産材使用量：0.03㎡
県産材使用率：0.3%

【応募者】

株式会社 亜細亜建設

青森市三内丸山238-1 Tel.017-766-6971

- 設計者／株式会社 亜細亜建設
- 施工者／株式会社 亜細亜建設
- 県産材調達先／株式会社 石郷岡

【非住宅新築部門】 工藤真人建築設計事務所・丸喜 株式会社 齋藤組

青森アリーナ カフェ&ベーカリー CAFÉ SHOP FIKA

木材を多用したデザインが特徴的な、カクヒロスーパーアリーナに併設された店舗。アリーナは、青森の厳しい気候に対応するため「ヨリドマ」や「コミセ」といった伝統的な木造構造で設計されています。そこで店舗にも木材を多用し、デザインも調和させることで、アリーナと一体の建築を実現しました。店舗内部にも木を多用し、アッパーライトで照らすことでより木を感じられる空間に。訪れる人々がリラックスできることを目指しました。



DATA

建築場所：青森市
構造及び階数：木造1階
延床面積：150.19㎡
木材使用量：26.31㎡
県産材使用量：1.20㎡
県産材使用率：4.6%

【応募者】

工藤真人建築設計事務所
青森市花園2丁目5-6 Tel.017-752-8185

丸喜 株式会社 齋藤組
青森市中央2丁目2-12 Tel.017-777-3329

■ 設計者／工藤真人建築設計事務所

■ 施工者／丸喜 株式会社 齋藤組

■ 県産材調達先／株式会社テオーフォレスト

【非住宅木質化部門】 有限会社 ヤマトホーム

coffee shop 禅

築30年以上になる元呉服店をリノベーションしたカフェ。日本の木造建築の良さを活かしながら、建物全体の色調を統一するため外装に橙色やピンク色を帯びる温かな木目のスギを多用。店内のカウンターにもスギを使用し、大テーブルには曲がり目が目を引くケヤキを使用しました。また、水に強いヒバ材を水まわりのカウンターに使用。長年付き合いのある大手材木店や地元製材所から、良質な材を低コストで調達し適材適所で使い分けました。



DATA

建築場所：弘前市
構造及び階数：木造2階
リフォーム面積：152.78㎡
木材使用量：2.7㎡
県産材使用量：0.4㎡
県産材使用率：14.8%

【応募者】

有限会社 ヤマトホーム
弘前市大字独狐字石田90-3 Tel.0172-99-1015

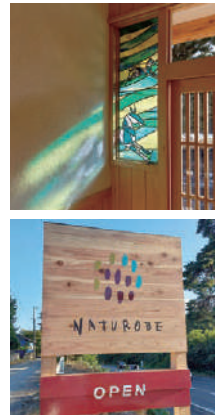
■ 設計者／有限会社 ヤマトホーム

■ 施工者／有限会社 ヤマトホーム

【非住宅木質化部門】 株式会社 シーアールティー・ワールド

農園ナチュローブ

カフェ、直売所、加工所を併設する、有機JAS認証農園「ナチュローブ」の6次化施設。生産者やユーザーの交流を深める拠点とすること、また農作物の育つ背景まで親しめる環境を提供したいとの施主の想いから、建物の空間や外観も大切に考え、青森県産のスギ、ヒバを活用して環境再生型（リジェネラティブ）の実現に努めました。スギの外装で木材の存在感をダイレクトに表現。玄関や床などの内装は、ヒバを使用し香りの癒し効果を与えます。



DATA

建築場所：十和田市
構造及び階数：木造2階
延床面積：198.46㎡
木材使用量：23.00㎥
県産材使用量：22.00㎥
県産材使用率：95.7%

【応募者】

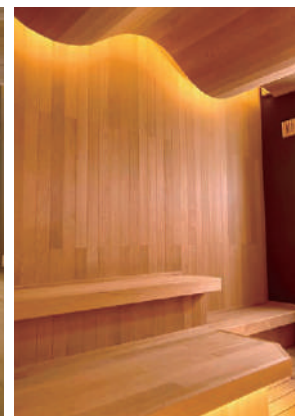
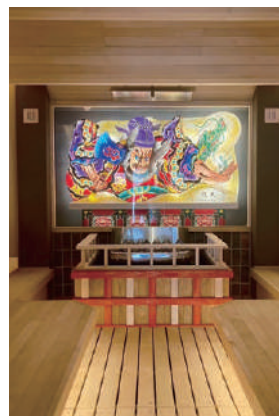
株式会社 シーアールティー・ワールド
埼玉県新座市野火止2-9-11 Tel.048-480-5321

- 設計者／株式会社佐々木設計
- 施工者／株式会社クドウ住建
- 県産材調達先／株式会社クドウ住建 製材部

【非住宅木質化部門】 株式会社 木組工務店

星野リゾート 青森屋ねぶたサウナ

青森文化を体感する宿「青森屋」の旧サウナ室をリプレイスした「ねぶたサウナ」は、室内の床、天井、壁面に青森ヒバを使用した、青森ヒバの香りに包まれる空間です。青森ヒバが持つ強度と防腐性、消臭性、防カビなどの機能を活かし、地産地消にも努めました。動きのあるR天井は、木材だからこそ可能な造形天井。日本三大美林である青森ヒバの素晴らしさと青森文化を体感できる、県外や海外から訪れる人たちにも誇れるサウナが完成しました。



DATA

建築場所：三沢市
構造及び階数：鉄骨1階
延床面積：44.42㎡
木材使用量：2.10㎥
県産材使用量：1.90㎥
県産材使用率：90.5%

【応募者】

株式会社 木組工務店
三沢市栄町三丁目140-832 Tel.0176-57-4547

- 設計者／岩田尚樹建築研究所
- 施工者／株式会社木組工務店
- 県産材調達先／有限会社 島木材工業

Made in Aomori House

県産材 地産地消ビルダー事例13

- 01 株式会社 大山建工
- 02 株式会社 ヤマノアーキデザイン
- 03 企業組合 県木住
- 04 有限会社 キーポイントホーム
- 05 株式会社 日本の窓
- 06 1952HINOKIYA 一級建築士事務所／有限会社 赤穂工務店
- 07 1952HINOKIYA 一級建築士事務所／有限会社 家口建設
- 08 株式会社 木組工務店（シェアオフィス BLUE）
- 09 株式会社 木組工務店（青森ねぶたサウナ）
- 10 株式会社 木組工務店（サードプレイスミサワ）
- 11 株式会社 木組工務店（みんなのいばしょ あご〜る）
- 12 有限会社 林工務店
- 13 有限会社 岩木建設

Aomori Wood Fan Event

チーム県産材「縁むす日」

Aomori Wood Reform Event

株式会社 今井産業「2024 住まいとお庭のリフォームフェア」



Made in Aomori House

01

大工の技術と情熱を注ぎ込んだ 令和の数寄屋建築

株式会社 大山建工

文=吉田 真緒 写真=大山建工 提供
text:Mao Yoshida photo:Ooyamakenko

四季折々の自然を慈しむ 伝統的な日本の美意識

日本の伝統である数寄屋建築の住宅が、三沢市に誕生しました。敷地1,200坪、建坪200坪という、類を見ない広さの平屋で、完成までに約6年の歳月をかけたといいます。県内の原木を調達するところから始め、大工が手刻みで加工した木材を使っています。

数寄屋は約400年前、千利休により茶の湯が盛んになった時代に、人をもてなす茶室として生まれました。様式よりも精神性を重んじて受け継がれ、現代では茶室に限らず茶室の趣をもつ建築の総称となっています。

四季を愛し自然を慈しむ心から、庭と建物が一体となる「庭屋一如（ていおくいちによ）」の空間を求めたという今回の数寄屋。賓客を迎え入れる表門は、広い屋根を2本の丸太のみで支えており、大工の技術力がうかがえます。扉に組まれているのは樹齢200年を超える南部産のスギ。大山建工の会長が秘蔵していたものを、この建築のために提供したといいます。

アプローチには、冬の長いこの地に春の訪れを告げる、花実をつける木々が連なり、正面玄関の手前には穢れを落とす手水が。園路を進むと、ゆるやかな丘陵の芝が広がり、石で水を表現した「枯れ流れ」が橋の下を通して建物へと流れ込んでいます。枯れ流れの源流は、巨石を滝に見立てた「滝口」です。庭の中心である滝口に立つと、建物の全貌を望むことができます。雁行した屋根に、庭に沿って軒を極力低くしたというその佇まいは、景色と調和し自然の一部のよう。園路はさらに、「もみじ山」と呼ばれる通りを抜け西の玄関へと続きます。このように、庭園では歩みとともに移り変わる自然のストーリーを味わえます。

雁が隊列を組んで飛ぶ姿に由来する雁行の屋根は、庭に沿うように低く、内外の空間を一体化させる。





原木から調達した大木を贅沢に使った

ていおういちによ 「庭屋一如」の住まい

正面玄関を入り、厚さ15cmもの一枚板の敷台から建物に足を踏み入れると、木のよい香りに包まれます。そして、「水鏡」という深さ20cm強、幅6m、長さ最長21mの、水をはった空間が目飛び込んできます。ここを囲むかたちで建物が設計されているのです。水鏡では、風がふくたびに細波が生まれ、夜には各部屋の明かりが幻想的に浮かびあがります。水は井戸水を利用しており、冬季に屋根から落ちる雪を溶かす機能も兼ねています。

この住宅には2世帯が暮らしており、ご両親のLDKから庭園を望むと、先ほどの枯れ流れが建物の下をくぐり、水鏡に続いていることがわかります。一方、若いご夫婦のLDKからは、芝が広がる静かな表情の庭園が見られます。いずれも、室内の天井の勾配がそのまま軒裏へ続いており、さらに庭へとつながっていく……まさに庭屋一如の景観です。また、後者の部屋は垂木材を組んだ天井

が特徴的で、低い軒先の外観とはうってかわって、内には豊かな空間が広がるという、高度な技術を要する構造をしています。

水鏡を挟んで反対側には和室が3部屋並んでおり、親族が集まれるよう、ひと続きにできる仕様です。そのため天井には各部屋をつらぬいて長さ9m幅80cmにもおよぶスギの一枚板がはられており、一体感がもたらされています。これほど荘厳な板をはれるのは、大山建工が長年原木の調達を行い、“木を見る目”を培ってきたからこそ。

和室から水鏡へ目を向けると、水面から軒裏へと反射した太陽光が揺らめいており、なんとも趣があります。細部にわたり意匠が凝らされた設計と、それを叶える職人の技が結集された建築には、時代を超えて受け継がれてきた日本の美が表現されていました。



1.節目も割れもなく見事な天井板と、それを支える柱と梁。2.若いご夫婦のLDK。天井の垂木は、高いところで長さ3.5mにおよぶ。3.正面玄関を入ると広がる光景。4.応接間の天井はスギの杵を市松に編んでおり、間接照明が美しい凹凸を照らす。

DATA | 物件概要

施設名：一般住宅
構造及び階数：木造平屋建て
建築面積：672.74㎡
延床面積：590.15㎡
完成年月日：2024年12月28日

設計者：前田伸治
暮らし十職 一級建築士事務所
施工者：建築／株式会社 大山建工
庭園／鈴木造園

【県産材の使用状況】

構造材：梁、柱へアカマツ、スギ
内装材：床にアカマツ、ナラ、天井にスギ
外装材：濡れ縁にクリ

BUILDER'S DATA | 工務店情報

株式会社 大山建工

八戸本部／青森県八戸市大字河原木字千刈田7-1

Tel:0178-21-3055 Fax:0178-21-3033

eigyo@ooyamano-ie.jp

<https://www.ooyamano-ie.jp/>





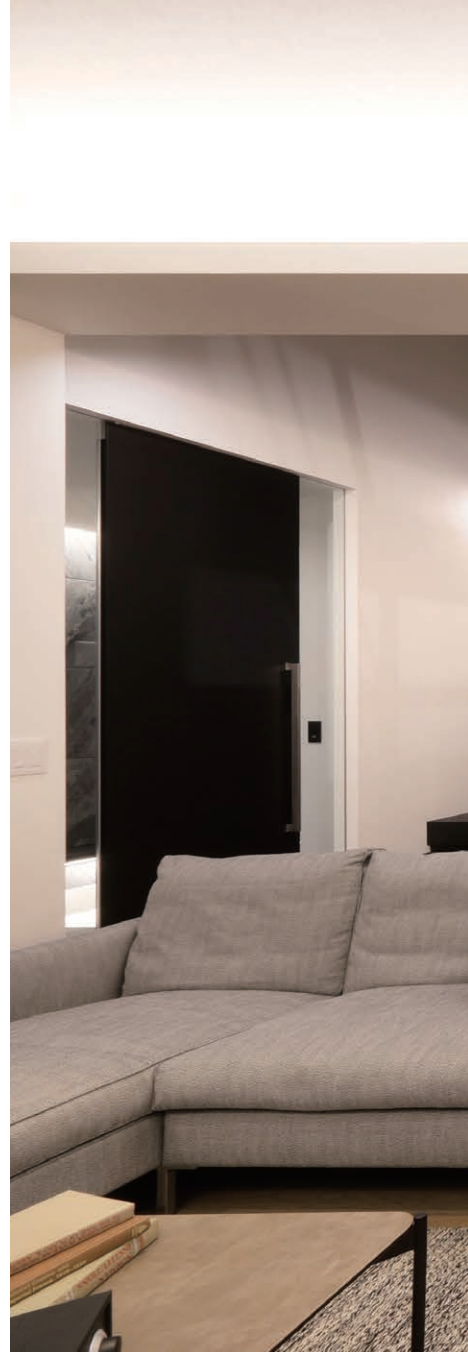
Made in Aomori House

02

ハイクオリティーな 建築デザインで魅せる家

株式会社 ヤマノアーキデザイン

文＝井藤 雪香 写真＝ヤマノアーキデザイン 提供
text:Yukika Ito photo:Yamano Archi Design





YAMANO ARCHI DESIGN

細部にまでこだわる建築デザインにより、ラグジュアリーな雰囲気醸成リビングダイニングキッチン。構造の土台、柱、桁、小割材に県産材を使用。

上質な暮らしを体感できるモデルハウス

見た目はもちろんのこと、構造、性能から資金計画までこだわり抜いて住まいをデザインするヤマノアーキデザイン。「デザインだけじゃないデザイン」をテーマに、ハイクオリティーな住宅を手掛けています。2024年に五所川原市の「エルムECOタウン-Part 8-」にオープンしたモデルハウスは、まさにハイクオリティーで美しくデザインされた家。住まいに上質な空間を求める方に、ワンランク上の暮らしを提案しています。

1階にプライベートガーデンを眺める約26帖のリビングダイニングキッチン、リビング階段を登った先の中2階に子ども部屋とサニタリースペース、2階にロフト付

きの主寝室を配置。漆喰、木材、アイアン、カーペット、タイルなどのさまざまな建材を巧みに組み合わせ、落ち着いた色調でまとめた洗練されたインテリアです。キッチンなどの設備機器も、ハイクオリティーなものを厳選しています。

上質な空間では、暮らしに必要な雑多なものを片付けるための収納がより重要となります。このモデルハウスでは1階のパントリー、2階の脱衣室で整理収納アドバイザーによる収納プランを提案。デザイン住宅での暮らしをよりイメージしやすくなっています。



遮光性を高めた寝室。写真右手の収納部の奥には、隠れ家のようなロフトがある



2階のランドリールーム隣に配したウォークインクローゼット。
家族の衣類をまとめて収納できる大容量

豊かに住もうための 住宅の性能

IoT技術を活用した「スマートホーム」であることも、このモデルハウスの大きな特徴です。家庭内のあらゆる電化製品や住宅設備をインターネットでつなぐことで、便利な暮らしを実現。例えば照明の点灯・消灯や、ブラインドの開閉など、日常のちょっとした動作はスピーカーに話しかけるだけで行えます。また、スマートフォンを使って外出先から家の状況を確認することもできます。このようなさまざまな機能によって、生活の質を高めることができます。

さらに同モデルハウスは、IT技術を活用してエネルギー消費の抑制を図る「スマートハウス」でもあります。太陽光発電システムでつくった電気を蓄電池にためて使い、電気使用状況を見える化して管理する「HEMS（ヘムス）」を設置することで、エネルギーの自動制御を可能にしています。

同社標準の「ジョイ・コス住宅システム」による硬質ウレタンパネル、気密施工、24時間換気システムも省エネにつながり、空気環境を年中快適にデザイン。意匠の美しさと多彩な性能を併せ持つ家です。

環境と未来のために 県産材の積極的活用を

青森県産材をふんだんに使う家づくりも、同社がこのモデルハウスに寄せた想いのひとつです。「青森県産材を使うということが、これから必要になる」と、社長の工藤晃史さん。「現状では青森県産材の多くは県外で使われていて、県内の業者が青森県産材を使うことは少なく、このままではいけないと思っています。例えば直近でいえばコロナ禍の際にウッドショックが起きました。県外や海外の木材をあてにしていると、そういうことが起こるのです。備える意味でも、青森県産材を上手に使っていかねばなりません」と話します。同モデルハウスは、土台に青森ヒバ、柱や桁、小割材に青森県産スギ、梁に青森県産アカマツなどが使われています。「見えなくなる部分でも使っていく。そういうことを、心がけとしてやっていきたいですね」。

伐採した県産材を使うことは、環境にも優しい活動です。ハイクオリティーでありながら、周囲の課題にも目を向ける同社の家づくりをモデルハウスで体感してみませんか。



寝室ではホームシアターを楽しむ。
スクリーンの上げ下げやブラインドの開閉はIoTデバイスによりすべて自動



リビングはプライベートガーデンとつながり、視線を気にせず外に出られる

DATA | 物件概要

施設名：モデルハウス pt.8
構造及び階数：木造2階建て
建築面積：128.78㎡
延床面積：140.54㎡

設計者：ヤマノアーキデザイン
施工者：ヤマノアーキデザイン

【県産材の使用状況】

構造材：青森ヒバ、スギ、アカマツ

BUILDER'S DATA | 工務店情報

株式会社 ヤマノアーキデザイン

青森県北津軽郡鶴田町大字境字北原73-24

Tel: 0173-22-6789 Fax: 0173-22-5472

info@yamano-archi.co.jp

<https://yamano-archi.com/>



ガレージからはパントリーにも玄関にも雨に濡れずに入ることができる。蓄電池も設置



木の家への憧れから始まった家造り 施主の思いを形にした 長く住み続けられる家

企業組合 県木住

文=工藤 健 写真=今井 聡
text:Takeru Kudo photo:Satoshi Imai

環境に優しい家造りのスタート

パッシブデザインを取り入れ、天然の無垢材を使用した家にしたかったと明かす施主の永山淳造さん。パッシブデザインとは、自然エネルギーを最大限に活用して快適な住環境をつくり出す設計手法のこと。季節ごとの特性に合わせた環境に配慮した住宅をデザインすることである。パッシブデザインにこだわったのは、以前建てた永山さんの家が、有名住宅メーカーの商品で、冷暖房をつけることを前提に造られていたことから。不満は特になかったというが、近年のエネルギー価格の高騰がある中で、冷暖房をつける生活が当たり前になっていることに疑問を持っていたという。天然の無垢材にしたかった理由は、木材への憧れ。木材の持つ温かみのある雰囲気や化学素材を使わない体に優しい住宅を持とうと思ったことからだった。

JR弘前駅から徒歩数分にある敷地面積約120坪の場所を永山さんが取得し、家を建てようとして計画したのは3年前。当初は県産材というキーワードは思い浮かばず、「無垢材で家を建てたい」と考えていただけだった。工務店を探していたところ、偶然見つけたのが企業組合県木住。無垢材での建設実績は十分にあった県木住から、自然素材を使う理念や県産木材を使った家づくりを教えてもらったという。より環境にやさしく、愛着を持てる家に住みたい。そんな思いが決め手になった。何より事務所の居心地が快適だったことが施工を依頼した大きな理由だったと永山さんは微笑みながら振り返る。





木のぬくもりを足からも感じられるように床も木製。木材の節（ふし）にも味わいがある



開放的な吹き抜けにしたことで、空気の流れがでただけでなく、反響音も良くなり、音響環境も良くなったという

取捨選択がはっきりしていた

県木住の佐藤時彦さんによると、永山さんにはすでに建てたい家のイメージができており、間取りもすでにできあがっていたという。パッシブデザインといったアイデアも打ち合わせの当初からあった。永山さんとの打ち合わせは、実現性があるかどうかを話し合うことがメインの議題になった。例えば、ソーラーパネル。設置には7メートル×5メートルの広さが屋根に必要となり、片流れ屋根を採用。ビニールクロスや接着剤などの化学素材は使わない県木住のスタイルに共感して、壁は漆喰となり、天井は和紙壁紙となった。



1階だけで生活が完結できるよう寝室は1階にした。段差をなくし、廊下を広くするなどのバリアフリーにしている



一方で、洗面所やキッチン最低限の機能で十分と決めていた。食洗機や収納ラックなどには多くの機能性を求めがちになるが、永山さんからの要望は少なく、予算を掛けるポイントが決まっていたため、打ち合わせは楽だったと振り返る佐藤さん。永山さんの希望としてあったことは、10年20年と長く住むにあたって、生活が1階だけで成り立つような間取りにしたいということ。寝室を1階にしたのは当初からあったアイデアで、2階へ上がることが億劫になってしまうことを想定したつくりになっていた。佐藤さんはそれに車椅子でも通れるような廊下を広げるなどのアイデアを加えた。さらに足腰が弱くなくても昇りやすくなるように階段の段差を低く設定。長く住み続けたいという施主の希望に寄り添った家となった。

県産材にして実現できたこと

永山さんが住み始めて1年以上がたった。四季を通して当初の目的が実現できた家になったと実感している。屋内を、永山さんは裸足で生活をするようになった。県産の木のぬくもりや温かさを、肌で感じ、当初の目的だった温もりのある家に住むことができている。朝夜の寒暖差の厳しい青森で、常に一定の室温と湿度を保っていることに驚きを隠せないと永山さん。夏場でもエアコン1台で十分涼しく、冬は薪ストーブだけで家全体が適温で、冷暖房費の削減につながっている。

さらに木目や木肌を目で感じながら落ち着くことができるようで、視覚効果もあった。1階から見る吹き抜けをソファに寝転びながらスマホで写真を撮ることもあるという。また、家に人を招きホームパーティをする機会も増えた。客人をもてなすことが多くなり、より温かい家にもなっているようだ。今後は家庭菜園を始めることが目標という。まだ手をつけられていないが、長く住む家だからこそ、ゆっくりと時間をかけて作っていくことだろう。



小型の薪ストーブ1基だけで冬でも家全体が温かくなるという。
煙突は2階を突き抜けて直線的にすることで、メンテナンスもしやすい



JR 弘前駅から徒歩5分ほどの立地。
南向きで日を遮る建物がなかったことも場所を選んだ理由の一つ

DATA | 物件概要

施設名：一般住宅
構造及び階数：木造2階建て
建築面積：118.97㎡
延床面積：168.53㎡
完成年月日：2023年11月10日

設計者：企業組合県木住
施工者：企業組合県木住

【県産材の使用状況】

構造材：土台に青森ヒバ、柱にスギ、
梁にアカマツ
内装材：床にスギ
外装材：外壁・下見板にスギ

BUILDER'S DATA | 工務店情報

企業組合 県木住

青森県青森市浪岡大字徳才子字福田60-2
Tel:0172-55-7793 Fax:0172-55-7559
info@kenmokuju.com
<https://www.kenmokuju.com/>



Made in Aomori House

04

県産材で実現した健康な空間 家族とともに育つ住まい

有限会社キーポイントホーム

文=小田切 孝太郎 写真=有限会社キーポイントホーム 提供
text:Kotaro Odagiri photo:Ki- Point Home's

Ki-POINT HOME'S

ロフトは工藤さんお気に入りの空間。左壁面の通風口が空気循環で重要な役割を果たします。



青森の自然風景にも馴染む外観。

自然素材の家を求めて

「青森の気候風土を体感して大きくなった木ですから、それを活用することで過ごしやすい家になるんです」と語るのは有限会社キーポイントホーム代表の阿保勝之さん。県産材と自然素材を採り入れた、高気密・高断熱住宅を数々施工してきた同社。そのひとつが平川市の工藤さん宅です。ダークブラウンの外壁に片流れの大屋根、南側の大きな窓をポイントに、スクエア型の小窓を配した外観は、まるで山小屋のよう。施主の工藤さんは以前、長野県の山小屋で働いており「無意識のうちに山の雰囲気合う家に惹かれていたのかも」と話します。

高齢の両親のことや家族と過ごせない働き方に疑問を感じ、故郷での新たな暮らしを決意したのは3年前のこと。子どもたちがアレルギーを持っていたので、健康面に配慮した自然素材の家造りをテーマに、青森県内のみならず、当時の拠点だった長野県の工務店も巡って、出会ったのがキーポイントホームでした。「県産材や自然素材のこと、子どもや親の健康、省エネのことなど、阿保社長の説明は『それら全てが快適な暮らしに繋がる要素だよ』というもので、説得力を感じました」と工藤さんは振り返ります。

1. 高齢の両親のことを考えて造られた広い玄関。
2. ウォークスルーでアクセス玄関収納。



県産材を使うには理由がある

入った瞬間から木の温かみに包まれる室内。収納棚や天井、カウンターや化粧柱など、青森県産のスギをふんだんに活かした空間が広がります。床材は柔らかく肌触りが良いスギで統一され、素足で触れるのが気持ちよさそう。工藤さんはスギが飴色に変化していく様子を楽しんでいるとのこと。見えない部分ではありますが、構造材の土台には青森ヒバを用いています。「ヒバはシロアリや湿気に強く、寺社仏閣にも使われる強い木。古くても良いものは採り入れることを意識しています」と阿保さん。LDKの一角には両親のために設けた畳スペースがあります。ここの畳はキーポイントホームオリジナルで、近年は藁床にスタイロフォームが使われる製品も多いですが、天然材を使用した昔ながらのづくり。調湿・調温効果を持ち、健康的な暮らしに一役買っています。

暖房設備は薪ストーブのみ。煙突が通る開口部や階段を伝って家の最上部へ上昇した熱は、ロフト部分の通風口を通してじんわりとリビングや家中に行き渡ります。

さらに、木が持つ蓄熱効果も暖かさを保つポイント。一方で夏は、キッチンからの眺望を考えた大きな窓から涼しさを取り込みます。工藤さん曰く、夏もエアコンいらずで快適に過ごせたとのこと。空気の循環をコントロールする仕組みをつくってあげることは省エネにも繋がり、高気密・高断熱住宅のメリットを最大限に活かした住まいを実現しているのです。



中央に配したキッチンからリビングを見渡せるよう開放的に考えられた LDK。



1. LDK の大きな窓は眺めもさることながら、風を取り込む役割も担います。
2. 暖房は薪ストーブのみ。ランニングコストも抑えながらも暖かく過ごせます。
3. 室内空間は床、天井、棚などスギ材をふんだんに使用。



1. 蓄熱性もあるオリジナル畳が敷かれたスペースが両親の憩いの場所。2. 各所に備えられた棚が空間のアクセントに。3. 階段は冷・暖気を部屋に行き渡らせる役目も果たしています。4. 子供部屋などがある2階はコットンクロスと漆喰の壁で統一。5. 手洗い用のスペースはタイル張りであらしく。

その人らしい家を提案したい

室内の壁には調湿性に優れ、汚れた際の上塗りも可能な漆喰を。一部は阿保さんが塗り方と補修方法を教えながら、奥さんが仕上げました。「メンテナンスの仕方は惜しみなく仕お伝えします。自分でやれる人はDIYすればいいし、難しければプロに頼めばいい」と阿保さん。同社ではユーザー向けのワークショップを開催するなど、長く暮らすための住宅との付き合い方を提案しています。心もストレスなく暮らせるのがキーポイントホームの目指す家造り。吟味した素材と居住空間、冷暖房の燃費もよい工藤さんのお宅は、そんな同社の想いが込められた住まいです。

家中どの部屋にいても木の温もりを感じられます。



DATA | 物件概要

施設名：一般住宅
構造及び階数：木造2階建て
建築面積：92.37㎡
延床面積：128.61㎡
完成年月日：2023年12月19日

設計者：有限会社 キーポイントホーム
施工者：有限会社 キーポイントホーム

【県産材の使用状況】

構造材：土台に青森ヒバを使用
内装材：床・壁・天井・カウンター・収納棚にスギ使用

BUILDER'S DATA | 工務店情報

有限会社 キーポイントホーム

青森県弘前市泉野3丁目11-11
Tel:0172-88-7705 Fax:0172-88-7706
staff@ki-pointhome.com
<https://ki-pointhome.com/>





NIPPON NO MADO

工場に併設されている開放的なショールーム。製品が並ぶほか、遮音性を体感できる装置なども。
予約時の申し込みで工場見学も可能。

Made in Aomori House

05

夏は涼しく、冬は暖かい。
環境にもいい木製窓という選択

株式会社 日本の窓

文=吉田 真緒 写真=松川 雄史
text:Mao Yoshida photo:Yuji Matsukawa

木製サッシを 日本の窓のスタンダードに

「日本の窓」は、日本で唯一生産ラインをもつ、木製窓の製造工場です。日本でつくられる窓は、大量生産に向いているアルミニウムのサッシが高度経済成長期に主流になり、木製サッシは市場の1%も満たしていません。しかし、木のサッシはアルミよりもはるかに優れており、欧米諸国では窓の20～40%が木製サッシです。日本は窓に関して、ガラパゴス状態になってしまっているのです。

「日本の窓」の親会社である東京の工務店「東京組」では、設立以来イタリアから木製サッシの窓を直輸入して住宅に使用してきました。そして2016年、「木製サッシを日本の窓のスタンダードにしたい」という思いから、創業者の故郷であり、スギの人工材面積が日本第4位の青森県に本工場を構えました。主力商品のモデル名は、「窓のBASIC＝基本」を略した「MADOBA（マドバ）」と名づけました。



写真提供／日本の窓

窓は家の顔」として、見た目にも美しい木製窓にこだわり続けてきた。



1. インテリアに合わせて木の色を選ぶ。
2. 日本の窓の木製サッシはペアガラスが基本。木の反りを矯正できる特殊な部品を、イタリアから取り寄せて使用している。

断熱性・遮音性に 優れた木製窓

木製サッシの最大の魅力は断熱性です。年輪が熱伝導の速度を変化させるため、熱が一定の速度で伝わるアルミよりも、約1,200倍も熱を通しにくいのです。同じ原理で、木製窓は遮音性にも優れています。

木製窓によって住宅の断熱性能が高まれば、室内の温度が保たれるため冷暖房費の節約になり、温度差により引き起こされるヒートショックのリスクも減らせます。また、窓の表面温度の変化も少なくなることから、結露もしにくくなります。さらに木は、ぬくもりを感じられる見た目や手触りが心地よく、月日が経つほどに風合いが出て経年変化ならぬ“経年良化”をします。メンテナンスは約10年に1度、傷みやすい箇所を削り塗装を塗り直す必要がありますが、自宅でもできる簡単な作業です。実際に木製窓を取り付けられたお客様たちからは、「すごくいい」と好評をいただいています。

木の地産地消が、 地球環境のためになる

窓のサッシを木製にすることは、地球温暖化対策にもつながります。とくに近年の住宅は、エネルギー消費を抑えられる高機密・高断熱が求められるようになってきており、これからは木製窓の時代といえるでしょう。また、木製サッシは製造時においても、丸太を製材し乾燥させるというシンプルな工程でつくるため、アルミの場合と比べてエネルギー消費を68倍も抑えられます。加えて「日本の窓」は、青森県産の木材を中心に100%国産材を使っているため、外国産材よりも輸送に伴う温室効果ガスの排出量を削減しています。

国産材のなかでも、「日本の窓」は樹齢50～60年の大径木を使用しています。幹が太い大径木は、かつては大黒柱などに使われていましたが、住宅のつくりが変わった現在では使い道がなくなり、樹齢20～30年の小径木と同じように扱われてしまっています。その点「日本の窓」のサッシはすべて無垢の木からつくるため、大径木がびったりなのです。

現在、日本に植林されている木はほとんどが伐り時を迎えています。それらを伐り出して活用し、新たに植林をすれば森を正しく管理できます。すると土壌が豊かになり、川や海へもその栄養が行き渡ります。国産材を利用することは、自然環境のためにもなるのです。木は石油燃料などと違い、再生産できる持続可能な資源。ぜひ木製窓で、木との暮らしを体感してください。



1. サッシにする木を伐採する様子。国産材の使用は日本の林業を守ることに
つながる。2. 伐採した木は製材所で製材されてから工場に届く。

十和田市の牧場だった敷地に建つ工場。その建築は「ウッドデザイン賞」や「JIA 環境建築賞」などを受賞。

写真提供／日本の窓





1. 50m 四方の広い工場をひと回りすることで、すべての生産工程を経て木製サッシが完成する。2. 塗料はイタリア製。3. 工場内には木の香りが充滿している。
4. 職員は地元で採用。5. イタリアから輸入した専用の機械で加工する。



写真提供 / 日本の窓

DATA | 物件概要

施 設 名 : 株式会社 日本の窓／十和田工場
構造及び階数 : 木造平屋建て
建 築 面 積 : 2947.83㎡
延 床 面 積 : 2798.34㎡
完 成 年 月 日 : 2017年4月28日

建 築 主 : 株式会社 日本の窓
設 計 者 : 株式会社 東京組／アルクデザイン
施 工 者 : 紺野建設株式会社

【県産材の使用状況】

構 造 材 : スギ
内 装 材 : スギ
外 装 材 : スギ

BUILDER'S DATA | 工務店情報

株式会社 日本の窓

青森県十和田市大字八斗沢字八斗沢68-10
Tel:0176-58-6070 Fax:0176-58-6080
contact@madoba.jp
<https://nipponnomado.jp/>



家族の成長とともに可変する、 “経年美化”の家

**1952HINOKIYA 一級建築士事務所
有限会社 赤穂工務店**

文=栗本 千尋 写真=1952HINOKIYA 一級建築士事務所 提供
text:Chihiro Kurimoto photo:1952HINOKIYA



1952HINOKIYA & AKOU KOUMUTEN



シンプルな白い外壁サイディングに、玄関部分の無垢材が映える家。玄関を囲う壁やドアは、ヒバでできているため、いい香りがする。



リビングから土間と予備室を見る。床に張られたヒバ材のフローリングは、部屋ごとに見切り材で分かれていないので段差がなく歩きやすい。

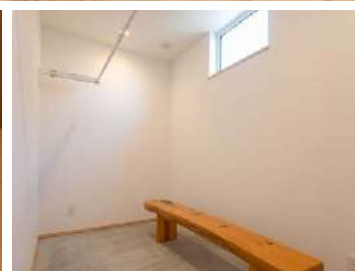


「木づかい賞」を受賞した住宅

材木屋を母体とし、県産材などの無垢材をふんだんに使った家を得意とする1952HINOKIYA一級建築士事務所。今回ご紹介するのは、2024年度第17回あおり産木材活用建築コンテストにて、「木づかい賞」を受賞した白銀の家です。(参照11P)

玄関を囲う壁には、殺菌・消臭効果があるヒバがふんだんに使用され、家に入る前からいい香りがします。上部のスリットから自然光を取り込む玄関扉を開けると、出迎えてくれたのは施主の齋藤さんご夫妻。左側にはキッチンと繋がる室内窓があり、家族のコミュニケーションを生んでいます。

床に張られたフローリングは部屋ごとに見切り材で分けられることなく、ずっとフラット。「子どもたちは帰ってきたら靴下を脱いで素足で過ごしています」と笑顔のお二人。床と壁の接する部分にある巾木も、高さのない無垢材を使用しているため、壁が広く感じられます。



写真右上は、玄関とキッチンを繋ぐ室内窓。写真左下の木製スリットは、床下エアコンの空調用。ダイニングや洗面室、ランドリールームにもこだわりが詰まっている。

床下エアコン1台で全館空調

もともと、近所でアパート暮らしをしていたという齋藤さんご家族ですが、3人目のお子さんが生まれるときに手狭になり、家を建てることを決意。以前からSNSで1952HINOKIYA一級建築士事務所をチェックしており、住宅見学会へ行くことにしたそうです。

「他の住宅メーカーにはないデザイン力に惹かれました。見学会で見たお宅は、どの角度から見ても美しかったです」

ご夫妻が求めたのは、デザイン性だけでなく、断熱性能や機能面も。

「それまで住んでいたアパートは、断熱性能が悪かったんです。夏は暑くて、冬は寒い。エアコンはリビングにしかないから、他の部屋に行けない時期もありましたし、北側の部屋は、スリッパを履かないと冬は歩けませんでした」

そこで、この家では断熱ボードを2枚使いし、壁にはウレタン断熱もプラス。床下エアコン1台だけで、全館空調が叶っています。エアコンの風が直に当たることもなく、寝るときも快適だそう。



2階から階下を見る。階段の手すりに使用されている無垢材は手触りが◎。

家族の営みが刻まれる、 一点ものの家

間取りは奥さまのこだわりが詰まった回遊動線。リビングと繋がるランドリーには洗濯機とハンガーパイプがあり、洋服が乾いたらハンガーのままファミリークロークへ。その隣はサニタリーになっており、実験用シンクを備えた造作洗面台と、お風呂とトイレがまとめられています。洗面台は玄関から近いので、家へ帰ってきたらすぐに洗えるのも便利。

キッチンで料理しながらも見守れるよう、ダイニングには子どもたちの勉強スペースがあります。その両脇はたっぷりの収納があり、可動棚により荷物の大きさが変わったときにも対応できる仕様。

「今は子どもたちに占拠されていますが、いずれ巣立ったら私たちの書斎スペースにしたいんです。今はせっかく造った土間にもマットを敷いてキッズスペースにしていますが、庭と繋げて半屋外空間にしてもいい。その頃には木材の色合いも変わっているだろうし、似合う家具を買うのもいいですね。家族の成長とともに使い方を変えていけるので、老後が楽しみになるような家です」

無垢フローリングは傷つくのが怖い、という人もいるかもしれませんが、齋藤さんご夫妻はこう考えているそう。「最初は汚しなくなかったのですが、子どもたちが鉛筆で落書きしてしまっても消せばいいし、工業製品じゃないから、傷ついたらやすりがけすればいい。そう考えると、目くじら立てなくてもいいやって思えるようになりました」

“建てて終わり”ではなく、住み継ぎながら、ライフスタイルに合わせて可変できる家は、家族の営みが刻まれ、経年美化していく一点ものです。

土間と無垢材は相性が抜群。
木のぬくもりが感じられるフローリングなので、素足で過ごしたくなる。



土間からリビングを見る。その奥にはキッチンがあり、右手にダイニングが。ゆくゆくは土間を庭と繋げて半屋外空間にしたいという構想も。

DATA | 物件概要

施設名：一般住宅
構造及び階数：木造2階建て
建築面積：89.77㎡
延床面積：129.93㎡
完成年月日：2023年7月

設計者：1952HINOKIYA一級建築士事務所
施工者：有限会社 赤穂工務店

【県産材の使用状況】

構造材：土台に青森ヒバ、柱にスギ
内装材：1階床に青森ヒバ、2階床・階段にスギ
その他造作材に青森ヒバ、スギ
外装材：玄関外壁に青森ヒバ

BUILDER'S DATA | 工務店情報

1952HINOKIYA一級建築士事務所

青森県八戸市柏崎三丁目8-13
Tel:0178-43-3848 Fax:0178-41-1002
1952hinokiya@gmail.com
<https://1952hinokiya.net/>



有限会社 赤穂工務店

青森県八戸市石手洗油久保6-10
Tel:0178-96-5510 Fax:0178-96-4079
info@akoukoumuten.com
<https://akoukoumuten.com/>



材木屋が母体だからこそ叶う、 県産材を使い分けた家

**1952HINOKIYA 一級建築士事務所
有限会社 家口建設**

文=栗本 千尋 写真=1952HINOKIYA 一級建築士事務所 提供
text:Chihito Kurimoto photo:1952HINOKIYA



1952HINOKIYA & KAGUCHI KENSETSU



自然光の入る、明るいダイニング空間。窓の上部は天井と同じ位置にあるため、開放的な印象に。

ハイドアや窓を 天井高に合わせ開放的に

JR八戸線長苗代駅近く、線路沿いに立つ一軒家。複数の素材が組み合わせられた外壁に、青森ヒバでできた外装ルーバーや外柱、玄関扉が、やわらかな印象をもたらしています。玄関扉を開けると右手にたっぷり収納のシューズクロークがあり、室内へ入ると家族がくつろぐリビングが広がります。

基本の天井高は2,250mmと、一般的な基準の2,400mmと比べると低めながら、広々とした印象です。これは、勾配天井の高い部分が2,850mmあることや、天井高に合わせて設置されたハイドアや窓のおかげ。車通りの少ない庭側の大きな掃き出し窓からは自然光を取り込み、キッチンの目線の高さにあるスリット窓からは線路のホームを借景しつつ、プライベートは確保しました。

リビングの真ん中に据えられているのは、機能性とデザイン性を兼ね備えた薪ストーブ。煙突を2階のフリースペースにも通すことで、物干し場として活用し、洗濯物を乾きやすく。通気口から床下へ暖かい空気を吸い込み、脱衣所に送り込むような仕組みになっていて、真冬でも家中を暖めてくれるそうです。



エアコンの室外機など、生活感のあるものは外装ルーバーが隠す。玄関ドアを開けて右手側には、たっぷり収納のシューズクロークが。



四代続く材木屋だからこその強み

設計を手掛けたのは、八戸市を拠点とする1952HINOKIYA 一級建築士事務所の栢澤卓馬代表。1952年創業の三代続く材木屋「檜屋木材店」が母体だからこそ、青森ヒバや青森スギ、南部アカマツといった地域材を扱っているのが同社の強みです。また、長年お付き合いのある職人さんがいるため、既製品の建具カタログから選ぶのではなく、その家のためにオーダーメイドした建具材や家具材を造りつけてくれるのも魅力のひとつ。

施主の島守さんは、この家を設計した栢澤さんと同級生というご縁があったため、住宅を建てると決めたとき、真っ先に相談したそう。

「彼がこれまでに設計した住宅をいくつか見学させてもらったところ、無垢材がふんだんに使われていて、色合いの優しさや、やわらかな手触りが心地よかったんです」家づくりを始めた頃、島守さんの妻のおなかには第二子がいきました。子どもたちと暮らす家なので、ぜひ無垢材を取り入れたかったといいます。

「もともと、どこの誰が作ったかわからないものを食べるより、できるだけ地産地消したいタイプ。だから、せっかくならできるだけ県産材を使いたいねと、妻とも話していました」



10.15 帖のリビングルームと繋がっているのは、客間にもできる3.83帖の和室。

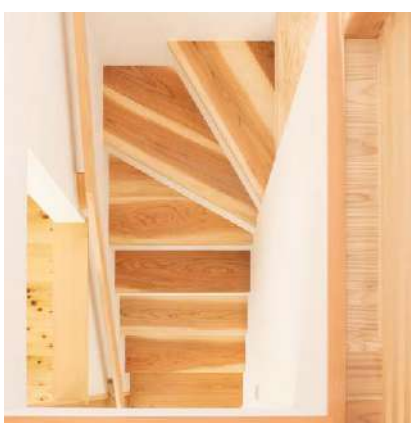


2階のフローリングは杉材を使用。作業台も造作したことで、統一感がある。

木材の特性によって 使い分け

梶澤さんは、それぞれの木材が持っている特性に合わせて、県産材をふんだんに使用しました。例えば、青森ヒバは緻密で水や虫にも強く、シロアリが好んで食べないため、土台や外壁、庭の枕木に。また、来客が多く、普段から家族が集まることの多い1階のフローリングや、オーダーメイドしたカウンターなどの造作にも活用しました。ヒバよりも安価な杉は、やわらかく傷がつきやすいものの、足触りがよく、クッション性にも優れているので、人の出入りが少ない階段や2階のフローリングに採用しています。実際に杉のフローリングを触てみると、1階のヒバよりもやわらかく、素足で過ごしたくなるような心地よさがあります。

「この家で長く暮らしていると慣れてしまってわからなくなるのですが、数日旅行してから帰ってきたとき、木のいい香りがしたんです」と島守さん。木々に抱かれたような、ぬくもりを感じられる暮らしがここにはあります。



DATA | 物件概要

施設名：一般住宅
構造及び階数：木造2階建て
建築面積：78.87㎡
延床面積：116.75㎡
完成年月日：2023年3月

設計者：1952HINOKIYA一級建築士事務所
施工者：有限会社 家口建設

[県産材の使用状況]

構 造 材：土台に青森ヒバ、柱にスギ
内 装 材：1階床に青森ヒバ、2階床・階段にスギ
その他造作材に青森ヒバ、スギ
外 装 材：外装の一部と玄関ドアに青森ヒバ

BUILDER'S DATA | 工務店情報

1952HINOKIYA一級建築士事務所

青森県八戸市柏崎三丁目8-13
Tel:0178-43-3848 Fax:0178-41-1002
1952hinokiya@gmail.com
<https://1952hinokiya.net/>



有限会社 家口建設

青森県八戸市青葉3-6-17
Tel:0178-44-2363 Fax:0178-44-2377
office@kaguchi.co.jp
<http://www.kaguchi-kensetsu.com/>





KIGUMI KOMUTEN

Made in Aomori House

08

青森ヒバをふんだん使った “帰ってきたくなる”オフィス

株式会社 木組工務店

文=吉田 真緒 写真=松川 雄史

text:Mao Yoshida photo:Yuji Matsukawa



壁一面がガラス窓になっている、開放感いっぱいのフリーラウンジ・カフェ。
使われている木材はすべて青森ヒバ。



写真提供／木組工務店

働く環境にこそ ストレスを和らげてくれる木を

建物の正面全体に青森ヒバの板が張られた「シェアオフィスBLUE」は、大小12室のオフィスルームとミーティングルーム、キッチン付きフリーラウンジ・カフェからなります。外観が物語るように、建築にはヒバがふんだんに使われています。まず、玄関の一角にヒバのチップが敷かれており、訪れる人をヒバ特有の落ち着く香りで迎えます。建物の中心部にあるフリーラウンジ・カフェは、フローリングから柱、梁、カウンター、キッチン棚まですべてヒバ。樹齢250年以上の立派なヒバの丸太テーブルと椅子も置かれており、見た目にも香りにも癒される空間です。さらに、トイレの壁にまでヒバの板が張られているため、建物のどこにいてもいい香りに包まれます。

フリーラウンジ・カフェと20名規模のオフィスルームには、ヒバの丸太の柱がシンボリックにそびえています。これらは、BLUEのオーナーであり材株式会社（以下「材」）の代表浄法寺朝生さんと、建築を手がけた木組工務店の代表新山聖将さんが、ともに下北半島へ出向き買付したもの。殺風景になりがちなオフィス空間でも、この柱があることでやわらかい印象になっています。新山さんはこう説明します。

「ヒバの柱は設計上なくすこともできましたが、今回あえて入れました。木にはリラックス効果があるので、よく居住スペースで求められますが、オフィスにあれば働く人のストレスを和らげてくれます。より気持ちよく仕事ができるんじゃないかと思います」

節のあるヒバの板を活かし香りの効果を楽しむ

「木も人も、それぞれ個性やバックグラウンドを持っていて、組み合わせることで最高のものになる」

材の浄法寺さんは、社名の由来をこう話します。曰く、「木も人も、癖や欠点を活かすことが大事」。BLUEもそうした考えのもと建築したといえます。

「ヒバの板のなかでも、節のあるものを活かすことで、『帰りたくなるオフィス』を目指しました。節がある板は、多少曲がったり割れたりすることがあるので、普通はクレームを恐れて避けます。けれど、そのぶん価格が安くなるし、少しくらい曲がったり割れても構いません。それに、節は油分が多くて香りが強いんです。ヒバのいい香りが嗅覚に働きかけて、『またここに来たい』と思わせてくれます」

実際BLUEには、「ただいま」と言いながら扉を開けたくなるような居心地のよさがあります。これもヒバの香りの効果でしょう。

防カビ、防菌、消臭機能があり、強度も高い青森ヒバを、浄法寺さんは「世界で一番すごい木」と讃えます。BLUEの建築にヒバを多用したのは、ヒバの産業を守りたいという思いもあったから。さらに現在、海外にヒバを販売する事業にもチャレンジしているそうです。

BLUEの特徴としてもうひとつ、内装にアップサイクルをした青森らしいアイテムを取り入れていることも挙げられます。エントランスには津軽びいどろの廃材を用いた格子窓がはめられ、ラウンジには不要になった布を織った南部裂織の作品が飾られています。すべてのオフィスルームには、建築段階で出た端材を組み合わせたアートも用意されています。

これまでにない試みにあふれたBLUE。入居者たちからの評判もよく、オフィス空間における新しいモデルとなりそうです。



1. フリーラウンジ・カフェに踏み入れると目に飛び込んでくる南部裂織の大作。2. 四季をイメージした津軽びいどろの窓。3. 建築現場からのアイデアで生まれた端材のアート。4. 2階には大小のオフィスルームが並ぶ。5. オフィスルームにはヒバの机が設置されている。



最も大きいオフィスルームには、立派なヒバの柱と一枚板のテーブルが。無塗装なので触り心地がよく、使い込むほどに経年変化も楽しめる。



フリーラウンジ・カフェのキッチン。
棚板はヒバでできており、ペンダントライトは青森の工芸品であるブナコ。

DATA | 物件概要

施 設 名 : シェアオフィス BLUE

構造及び階数 : 木造2階建て

建 築 面 積 : 476.98㎡

延 床 面 積 : 834.72㎡

完 成 年 月 日 : 2024年4月26日

建 築 主 : 材株式会社

設 計 者 : アップルアーキテクト株式会社
SOW設計工房

施 工 者 : 株式会社 木組工務店

【県産材の使用状況】

内 装 材 : 青森ヒバ、スギ

外 装 材 : 一部に青森ヒバ

BUILDER'S DATA | 工務店情報

株式会社 木組工務店

青森県三沢市栄町3丁目140-832

Tel:0176-57-4547 Fax:0176-57-4548

kigumi@kigumi-komuten.co.jp

<https://www.kigumi-komuten.co.jp/>



Made in Aomori House

09

ねぶた祭と青森ヒバを 全身で感じる コンセプトサウナ

株式会社 木組工務店

文=吉田 真緒 写真=松川 雄史
text:Mao Yoshida photo:Yuji Matsukawa

KIGUMI KOMUTEN

ねぶたは、ねぶた名人がこのサウナのために制作。男湯と女湯それぞれ微妙に造作が異なる。

サウナに適したリラックス効果と 防腐、抗菌、抗カビ作用

青森の文化を体感できる宿「星野リゾート 青森屋」に、コンセプトサウナ「青森ねぶたサウナ」が誕生しました。その名のとおり、ねぶた祭を全身で感じられます。

サウナ室は青森ヒバでつくられており、無垢の白木が見た目にも肌にも心地よく、踏み入れた瞬間から落ち着く香りに包まれます。室内には、ねぶた祭のおはやしが流れ、七代目ねぶた名人の竹浪比呂央氏が手がけた迫力

満点のねぶたが構えています。ヒバの板で組まれた天井は、躍動感いっぱいにウェーブしており、15分に1度、おはやしの盛り上がりとともにサウナストーンに水がかかるオートロウリュが作動します。ロウリュで室内に蒸気が行き渡ると、ヒバがいつそう香り立ち、サウナの熱気がまるでねぶた祭の熱気のように感じられてきます。

サウナストーンは、よく見ると金魚ねぶたや武者の形をしたものがあります。サウナヒーターの囲いは、山車の持ち手を彷彿とさせる紅白の柵。サウナマットはねぶたの台座に描かれる牡丹の花をモチーフにしており、12分計は跳人が跳ね回るデザインになっているなど、まさにねぶた祭づくし。青森ねぶたサウナはサウナ通のなか



サウナは露天風呂の一角にある。
扉を開ければねぶたの世界。



秒針に跳人があしらわれたオリジナル
12分計。跳人と一緒に汗をかこう。



サウナの温度は通常 90 度前後。
温湿度計には、ねぶたのモチーフである
龍王のいさましい顔が。



サウナの入り口にある貸サウナマット。
山車の下部に描かれる牡丹の花があしらわれている。

でも評価が高く、いま行くべきサウナ施設として「SAUNACHELIN（サウナシュラン）2024」にも選ばれました。

「ヒバのはめ板は、サウナ的环境に耐えられるように、とくに良質なものを使用しています」と、設計と施工を行なった木組工務店の新山聖将さんは言います。雪国の厳しい環境でゆっくり育つ青森のヒバは、木目が細かく強度があり、腐りにくく、抗菌、抗カビ、抗虫作用にも優れています。さらに香りにはリラックス効果もあることから、ヒバはサウナにぴったりの材といえます。サウナを体験した青森屋の宿泊客は、すぐにまた再訪したくなるでしょう。



サウナスヒーターをのぞきこんで、
金魚ねぶたや武者のストーンを探そう。

DATA | 物件概要

施設名：青森ねぶたサウナ
構造及び階数：鉄筋コンクリート1階建て
建築面積：44.42㎡
延床面積：44.42㎡
完成年月日：2024年4月10日

建築主：株式会社 三沢奥入瀬観光開発
設計者：岩田尚樹建築研究所
施工者：株式会社 木組工務店

【県産材の使用状況】

内装材：青森ヒバ

BUILDER'S DATA | 工務店情報

株式会社 木組工務店

青森県三沢市栄町3丁目140-832
Tel:0176-57-4547 Fax:0176-57-4548
kigumi@kigumi-komuten.co.jp
<https://www.kigumi-komuten.co.jp/>



露天風呂でも、池の対岸に四季折々のねぶたを望める。



地域密着型の施設だからこそ 建築に県産材を

株式会社 木組工務店

文＝吉田 真緒 写真＝松川 雄史

text:Mao Yoshida photo:Yuji Matsukawa

駅から近く、隣に温泉もあるサードプレイスミサワ。
ロゴは屋根の菱形をかたどったもの。サードプレイスの3と、三沢の3にちなんで3つの菱形が並ぶ。

KIGUMI KOMUTEN



1. 斜めに大きく突き出た屋根を支えるアカマツの梁。2. 塗装では出せない濃淡が味わい深い焼スギ。3. 屋根の模様は南部裂織を彷彿とさせる。

意匠を凝らした設計を 職人の技術で実現

三沢駅から徒歩3分ほどの場所にオープンした「サードプレイスミサワ」は、市民にとって自宅と職場に次ぐ第三の居場所となるような交流施設です。カフェ・バー、イベントスペース、高齢者デイサービスの3つのエリアが仕切りなく続いており、多世代がさまざまな目的で日々利用しています。

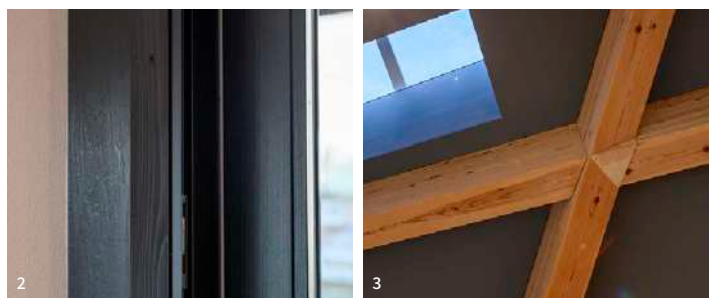
木造平家の建物は、南部菱刺しをモチーフにした菱形の屋根が、斜めに4つ連なるユニークな設計です。屋根は異なる色の板金がランダムに配置され、南部裂織のような模様をしています。外壁は耐久性を高めるため、県産のスギを使った焼スギが貼られており、白壁部分とのコントラストが目を引きまします。

菱形をベースにしている構造上、より強度が求められる梁は、油分が多い県産のカラマツの集成材を使用。菱形の角度に合わせて接合する必要があるため、建築の際は苦労したと、施工した「木組工務店」の代表新山聖将さんは振り返ります。このように凝った設計を形にできたのは、職人の方たちの技術と努力の賜物です。また、窓は十和田市にある「日本の窓 (P36)」に依頼し、県産材を用いたオリジナルの木製サッシを制作。木製サッシは断熱性・遮音性にも優れています。

新山さんは、普段から建築に県産材を取り入れるよう意識しているといいます。

「建物に使われる木が県産かどうかを気にするお客様は、まだあまりいません。いまはこちらから提案したり、さりげなく取り入れたりしています。お客様には、建物を使うなかで県産材の存在に気づいてもらえるとうれしいです」

地域に密着した場所だからこそ、建築材料も地元のもの。サードプレイスミサワの建物には、そんな思いも込められています。



1. 昼はカフェとして、夜はレコードバーとして営業。奥にはイベントスペースが。
2. 窓は断熱性・遮音性にすぐれた木製サッシ。3. 大工の方々の苦労が垣間見られる梁の接合部。

DATA | 物件概要

施設名 : サードプレイスミサワ
構造及び階数 : 木造平屋建て
建築面積 : 391.99㎡
延床面積 : 324.94㎡
完成年月日 : 2024年3月14日

建築主 : 株式会社 池田介護研究所
設計者 : 筒井紀博空間工房
施工者 : 株式会社 木組工務店

【県産材の使用状況】

構造材 : 梁にカラマツ
外装材 : 外壁に焼スギ



BUILDER'S DATA | 工務店情報

株式会社 木組工務店

青森県三沢市栄町3丁目140-832
Tel:0176-57-4547 Fax:0176-57-4548
kigumi@kigumi-komuten.co.jp
<https://www.kigumi-komuten.co.jp/>



子どもたちの記憶に刻まれる 県産材のぬくもり

株式会社 木組工務店

文＝吉田 真緒 写真＝松川 雄史

text:Mao Yoshida photo:Yuji Matsukawa

青森らしさを表現した子どもの居場所づくり

2024年4月に三沢市でスタートした児童施設「あご〜」は、子どもたちが生き抜く力を育むための居場所です。日本財団が全国に展開する「子ども第三の居場所」事業によるもので、青森では2箇所目になります。

建物は、古い木造の二階建てをフルリノベーションしており、見えない構造部の一部に県産材が使われています。内装は、総括マネージャーを務める社会福祉法人若竹会の土屋智裕さんが描いたイメージを形にしたもので、こちらも県産材が取り入れられています。「遊び心があって、子どもたちがまた行きたいと思える場所にしたいかった」と土屋さん。「海の図書館」と名づけられた読書室では、中央の水槽を囲むように4つのオリジナルベンチが並び、その座面と背もたれに青森ヒバの板が張られています。子どもたちがリラックして本に没頭している姿を見ると、土屋さんは「こだわってよかった」と感じる

そう。ヒバの香りや手触りも、子どもの心により影響を与えてくれるはずです。

また、キッズスタジオにあるウォールクライミングの壁は、県産スギの合板でできています。吹き抜けに張られたアスレチックネットのステップは、県産アカマツの角材を組んだもの。森をイメージしたというリビングの照明は、青森のブナから生まれた工芸品「ブナコ」のランプです。

自衛隊の基地などがある三沢市は、転勤により数年で他県に引っ越す家庭が多い街。あご〜で県産材を取り入れている理由には、「子どもたちが引っ越しても、青森のことを記憶に留めてもらいたい」という思いがあるからだとか。子どもたち原体験に、青森の木のぬくもりが刻まれています。



地域のコミュニティスペースとしても機能するラウンジ。



子どもたちが炊事を学び、食事をするキッチンとリビング。

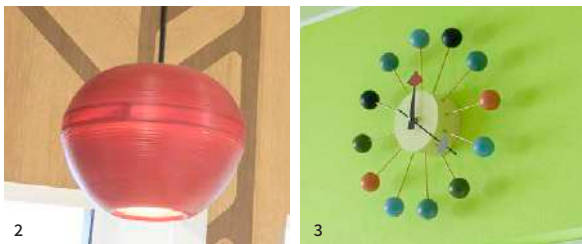


KIGUMI KOMUTEN

絵本を通じた子育てをモットーにしている土屋さんが、もっともこだわった部屋「海の図書館」。



1



2

3



4

1. 吹き抜けもアスレチックネットで子供たちの遊び場に。
2. かわいらしいリングのデザインのブナコ。3. 壁時計にも遊び心が表れている。
4. 思いっきり体を動かせるウォールクライミング。

DATA | 物件概要

施設名：みんなのいばしょ あごへる
構造及び階数：木造2階建て
建築面積：175.42㎡
延床面積：345.20㎡
完成年月日：2024年4月10日

建築主：社会福祉法人若竹会
設計者：有限会社 高村設計
施工者：株式会社 木組工務店

【県産材の使用状況】

構造材：柱材に一部スギ
内装材：一部アカマツ、家具に青森ヒバ

BUILDER'S DATA | 工務店情報

株式会社 木組工務店

青森県三沢市栄町3丁目140-832
Tel:0176-57-4547 Fax:0176-57-4548
kigumi@kigumi-komuten.co.jp
<https://www.kigumi-komuten.co.jp/>



Made in Aomori House

12

木が大好きな施主と、 木を知り尽くした こだわりのリノベーション

有限会社 林工務店

文=井藤 雪香 写真=山本 東
text:Yukika Ito photo:Azuma Yamamoto

HAYASHI KOMUTEN



鉄骨系住宅を木の温もりあふれる空間に断熱改修

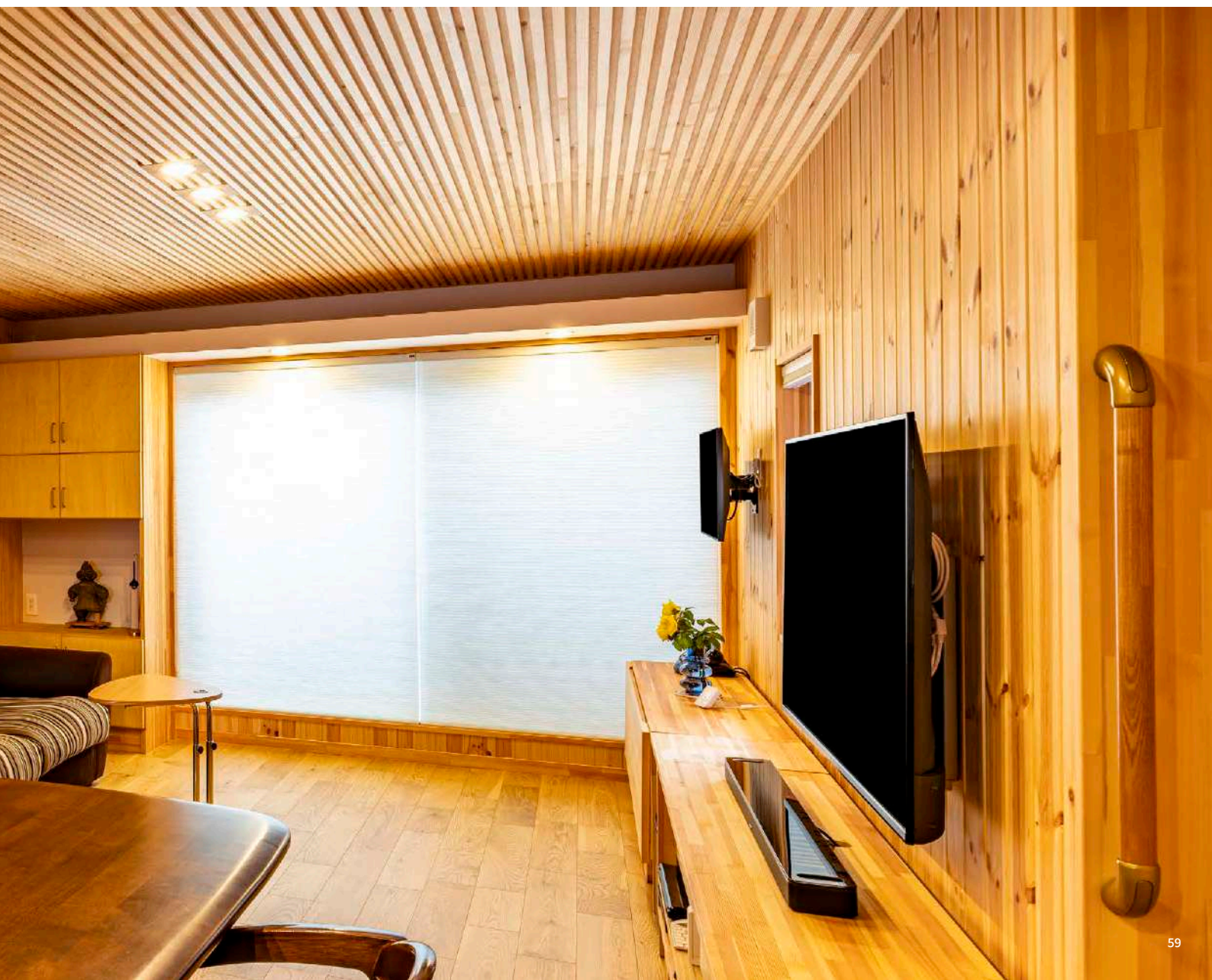
青森に適した低燃費な木の家を手掛け、地産地消に積極的に取り組む林工務店。今回ご紹介するのは、大手ハウスメーカーで建てた築40年の鉄骨系住宅を断熱リフォームした浅利さんのお宅です。親族が同社で家を建てたことがきっかけで、木をふんだんに使う同社のセンスに惚れ込み、1998年に増築を依頼。その後も小規模な改修を重ねてきました。

子どもたちが巣立ち、夫婦2人になった住まい。リノベーションの依頼を受けた代表の林陽一さんは、先代からのお付き合いであるご夫妻に快適に住まえる終の棲家となるよう、プランを作成。ご夫婦の要望である「木で囲まれた空間」であることに加え、温度のバリアフリー化

も重視したプランです。鉄骨ユニット工法住宅を木質化し断熱工事を施す大規模改修は制約が多く、とても難易度の高いものですが、定年後の世代が快適に過ごすためには欠かせない工事です。

内部の壁や天井の組み替え、鉄骨のユニットの隙間を塞いで居住空間の気流を止めたり、一般的な木造住宅では使わないような高性能の断熱材を使うなど、特殊な工事を経て、水回りも含む1階部分の室温をバリアフリー化。リノベーション前はリビング以外の室温が極めて低かったのですが、全室暖房で20～22度に保ち、暖房費を抑えつつも暖かく快適な暮らしを実現しました。

天井まで木に包まれた、ぬくもりあるリビング。職人渾身のリブ天井が圧巻





リブの意匠とダウンライトの組み合わせでモダンな雰囲気演出

木を知り尽くした 職人の技

床も、壁も、天井もリビングは木で囲まれています。特徴的なリブ天井から家具まで、電化製品以外は熟練の職人による造作です。リブ天井には約400本もの木材が使われており、1本1本の加工には大変な労力がかかったとのこと。節がなく綺麗な部分を選んでカットし、塗装に至るまで自社の職人による手作業です。「当初は天井だけはクロスの子定でしたが、『木のほうが格好いい』とご提案くださって。完成してみるとその通りでした」とご主人。窓枠や、雑多なものを収納できる造作家具、キッチンの棚まで全てが職人の手仕事によるもの。コンクリートの無機質なものに囲まれて暮らした経験があるご主人にとって、木に囲まれた暮らしは全く違うもの。「見た目に温もりが感じられて落ち着きます」と目を細めます。



リビングの棚も全て
木の質感を感じられる造作



温度のバリアフリー化により、1階の全室が快適な温度で保たれる



キッチンに据えた食器棚も造作し統一感ある空間に

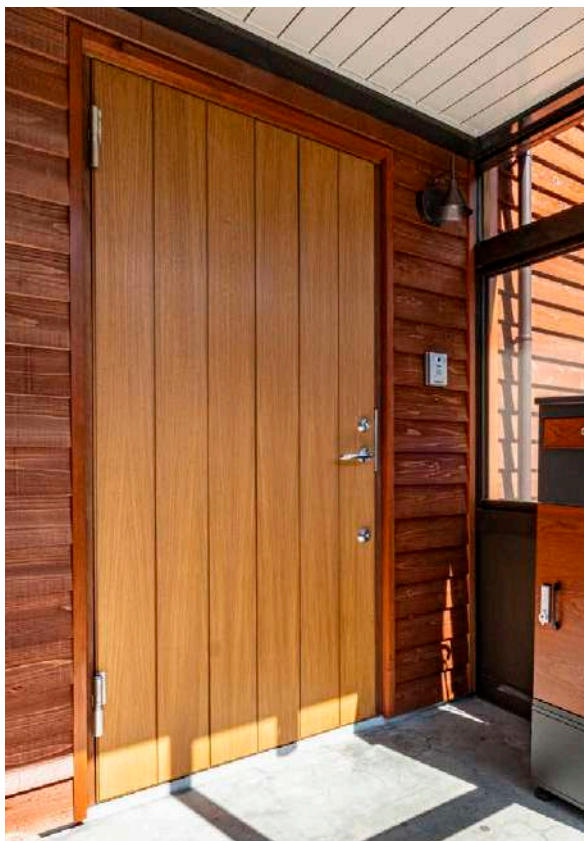
青森県産材への考え方

木の種類によるメリット・デメリットを考慮しながら、プランによって木材を使い分けている同社。地産地消の考え方から「使えるところは積極的に青森県産材を使っていく」と、林さんは話します。「例えば外装材でいえば、建材メーカーのものは将来的に必ず廃番になってしまいます。長く使うとなるとメンテナンスが欠かせないので、10年、20年経った時に廃番で修理できないから全部取り替えとなると、すごく無駄になってしまいますよね。一方で、地元の木がなくなることは考えにくい。修理となったときに、遠くの木をわざわざ切ってもらうのか、隣の山の木を切ってもらうのか。時間的にもコスト的にも、手に入りやすいものが一番いいと思っています」。

浅利邸では、リビングのリブ天井の他、リノベーションした1階部分の外壁に青森県産スギを使用しています。玄関に海外製の木製ドアを採用したので、その雰囲気に合わせて板張りに、ご夫婦の好みに合わせて茶色い塗装を施しました。ポイントで県産材も使った住まいに、ご夫妻は大満足です。



青森県産杉板を使用し、ブラウンカラーに塗装した外壁。
メンテナンスも容易にできる



玄関には重厚感ある海外製の木製ドアを採用。板張りの外壁とマッチするデザイン

DATA | 物件概要

施 設 名 : 一般住宅
施 工 部 分 : 1階部分及び木造増築部・断熱改修
改修部位面積 : 48.03㎡
完 成 年 月 日 : 2023年12月

設 計 者 : 有限会社 林工務店
施 工 者 : 有限会社 林工務店

[県産材の使用状況]

内 装 材 : スギ
外 装 材 : 外壁の一部にスギ

BUILDER'S DATA | 工務店情報

有限会社 林工務店

青森県青森市大字石江3丁目16-2
Tel:017-788-1713 Fax:017-788-1717
kikuizumi41@gmail.com
<https://www.884c.org/>

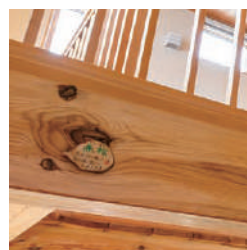


木の個性を生かして 青森らしさ溢れる家づくり

有限会社 岩木建設

文＝井藤 雪香 写真＝松川 雄史

text:Yukika Ito photo:Yuji Matsukawa



さまざまな木の表情に出会えるモデルハウス

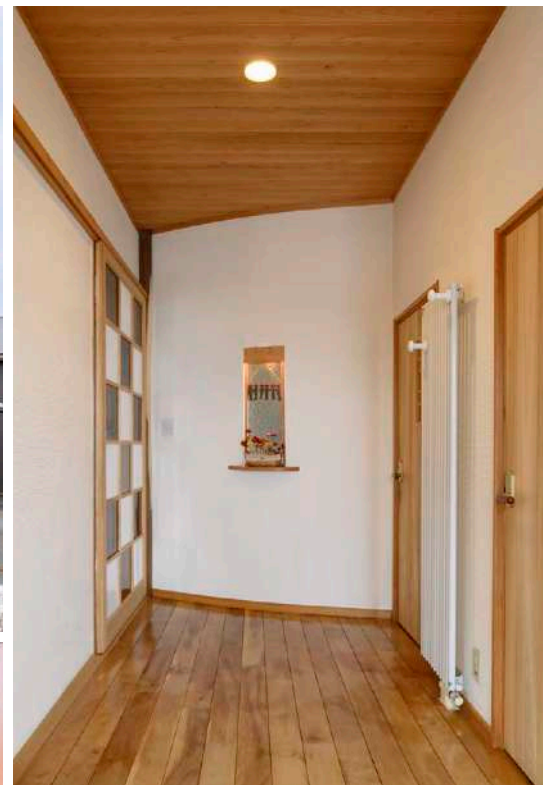
十和田市を拠点に、県産材をふんだんに使った家づくりを展開する岩木建設。今から15年ほど前、事務所敷地内に完成したモデルハウス「いわ木の家」は、当時同社が保有していた県産材を含むさまざまな種類の木材を使い、「それぞれの木をどう生かすか」をテーマに作った家。樹種ごとに表情が異なる、多彩な無垢の木に囲まれた空間が特徴です。

玄関から感じられる木のぬくもり。リビングに入ると、天井やフローリング、柱、階段とそこ此处に溢れる木々に囲まれて、まるで森の中にいるかのような。リビングの天井はスギ。フローリング、階段に使用しているのは、木目が美しく光沢のあるカラマツです。赤みがかった色が特徴的なカラマツは、若い木では比較的色彩が淡く、樹齢が増すと濃くなるという性質があります。同モデルハウスでは、階段に後者の赤みの濃いカラマツを使い、違いを楽しめるよう工夫を凝らしています。

各所に配した柱はそれぞれ異なる樹種を採用。空間にインパクトを与える珍しいエンジュをはじめ、クリやスギ、そして和室の柱はイブキとイチイです。それぞれの木の個性がインテリアそのものとなり、空間に溶け込んでいます。

そのほか引戸にはキリ、和室のフローリングにはカバザクラ。トイレやサニタリールームなど水回りには青森ヒバをふんだんに使用しています。青森ヒバは消臭・防虫・抗菌効果が高く、ヒバ特有の良い香りを楽しめるのも特徴。その香りはリラックス効果をもたらすことから、主寝室も総ヒバ造りです。

今なお木の香りする家は、適材適所で住まう人を快適に、心地よくしてくれます。完成から時間が経過していることにより、深みある色合いに変化した木の美しさも見どころに加わりました。





リビングの一角に、家全体を暖める薪ストーブを設置。
遠赤外線放射機能を持つ十和田石を周囲の壁材に採用し、効果を高めている。

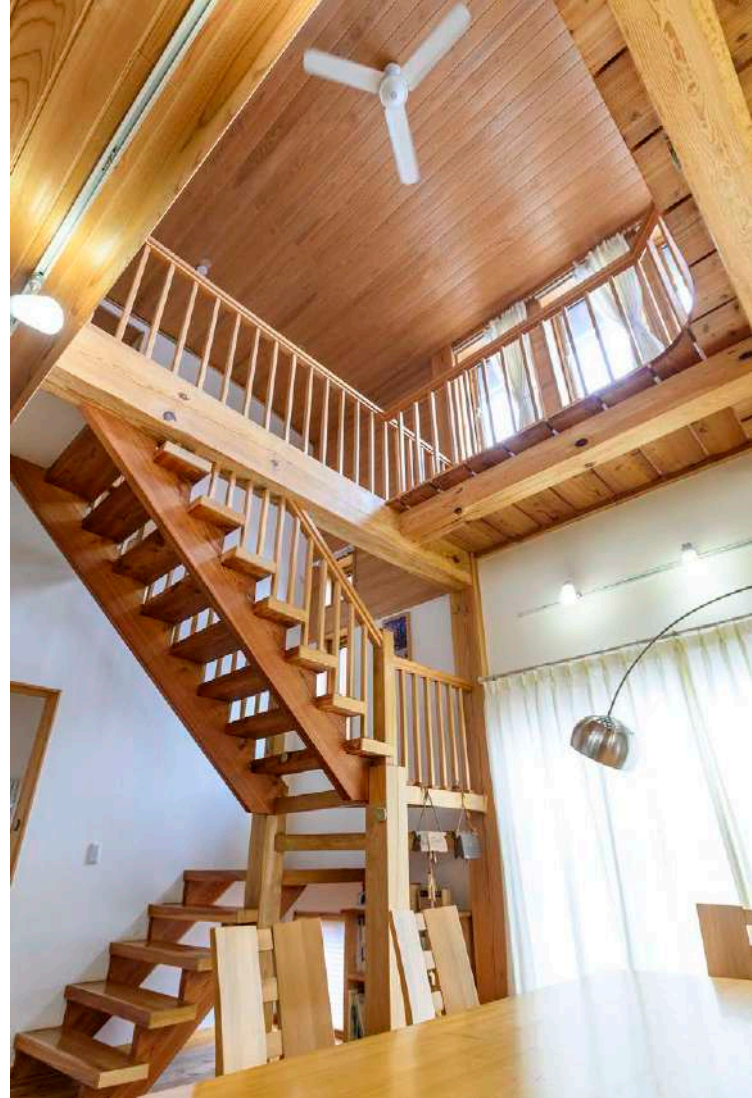
機能性を備えた 長期優良住宅

社長の岩木勝志さんは、大工、特に木工職人として長く経験を積んできました。その経験を存分に発揮して手掛けた同モデルハウス。8寸角の通し柱2本と小屋梁に幅約30cmのアカマツの太鼓梁を設置したり、約8mある長材を構造材としたりするなど、随所に職人技が光ります。そうして強く美しい木の家に仕上げることで、長期優良住宅を実現させました。

外断熱と二重通気を組み合わせた工法を取り入れているのも特徴です。夏は床下ダンパーを開き小屋裏ファンを廻すことで、外壁の熱ごもりを排出し、涼しく。冬は床下ダンパーを閉じ、小屋裏ファンを停止して、熱を逃しにくくします。熱循環を考慮した空間設計により、薪ストーブ一台で家全体が暖まります。

スギ床材は厚さ約3cmあり、合板のフローリングの約2倍の厚みがあるものを採用しています。触れてみるとほんのりと温かみが感じられて、スリッパを履かず素足で心地よく過ごすことができます。

「木には快適に暮らすための機能がたくさん備わっています。梅雨時期も湿度調整により快適。紫外線を吸収することにより目に優しい。衝撃を吸収してくれるから転倒時も大きな怪我を防いでくれる。さまざまな効果があるんですよ」と岩木さん。そんな木の良さを最大限に引き出して、機能面でも充実した木の家を作っています。



木と塗り壁が調和した明るい空間。さまざまな樹種の木材を採用することで、遊び心をプラスしている。



換気システムの機械は小屋裏に格納されている。一年を通して、家全体を快適な温度に保つ。



子ども部屋2室と書斎を配した2階。広いホールを設けたゆとりある間取り。

県産材で 地元の気候風土に適した 家づくりを

生まれ育った地元十和田で、数十年にわたり家づくり
に携わってきた岩木さん。長い経験の中で、地元で育っ
た木を使いたいと希望する施主が増えていると感じてい
るそう。「今では、県産材を使うことは一般的になってい
るのでは」と話します。

青森県では地域ごとに多種多様な樹木が生えており、
そのなかで十和田周辺では全国第4位の人工林面積を有す
るスギを昔から使ってきたそう。「青森県では家づくりと
いえば津軽はヒバ、南部はアカマツと昔から言われてい
たようですが、このあたりはスギなんです。スギは伐採
したあとの乾燥によるねじれや反りといった狂いが少な
く使いやすい木です。柔らかい点がデメリットと捉えら
れる面もありましたが、一方で折れにくいということが
ここ数年で立証されています」と話すのとおり、同社では、
県産スギを主に構造材として積極的に使ってきました。

「青森の木を使った家は青森の気候風土に馴染み、また
使うことで青森の林業活性化の促進にもなる」。そんな想
いを胸に、地元工務店だからできる家づくりを追求し続
けています。

DATA | 物件概要

施 設 名 : モデルハウス
構造及び階数 : 木造2階建て
建 築 面 積 : 146.15㎡
延 床 面 積 : 197.25㎡
完 成 年 月 日 : 2007年9月10日

設 計 者 : 設計工房プランズ合同会社
施 工 者 : 有限会社 岩木建設

【県産材の使用状況】

構 造 材 : アカマツ、スギ、青森ヒバ
内 装 材 : カラマツ、スギ、青森ヒバ、ヤマザクラ
外 装 材 : クリ柱、スギ、青森ヒバ、
デラクリート塗壁

BUILDER'S DATA | 工務店情報

有限会社 岩木建設

青森県十和田市大字洞内字井戸頭175-1
Tel:0176-27-2906 Fax:0176-27-3259
iwaki@sea.plala.or.jp
<http://www.iwakinoie.co.jp/>



2階からリビングを見下ろす。窓側をキャットウォークにし回遊性を持たせて家事にも便利な造りに。



素材を知れば青森が もっと好きになる チーム県産材の「縁むす日」!

有限会社 キーポイントホーム／企業組合 県木住

文・写真=小田切 孝太郎
text/photo:Kotaro Odagiri

2024年6月2日、青森市浪岡交流センター「あびねす」の多目的広場にて「縁むす日」が開催されました。
「企業組合 県木住」と「有限会社キーポイントホーム」が中心となった
「チーム県産材」が主催するこのイベントも今回で3回目。
「県産材が好きな人の縁と縁を結ぶ」というイベントのテーマ通り、
飲食店やアクセサリ、雑貨や農産物など青森を愛する17店舗と4台のキッチンカーが集結しました。



TEAM KENSANZAI
EN-MUSUBI



知って、触れて、 味わって

雨予報だった天気もなんのその、時おり太陽も差し込むイベント日和の会場はオープン直後から多くの人たちで賑わいをみせます。来場者がまず足を運ぶのが受付ブース。なんとアンケートに記入するだけで場内で利用できる金券のほか、景品までゲットできるというのだから驚きです。

そして食べることもイベントの楽しみのひとつ。糎の生マフィンやパフェなどのスイーツ、コーヒーやフルーツを使用したドリンク類、漂うキッチンカーのカレーや焼きホタテの香り……。食欲をそそる誘惑にあふれ、「何を食べようか」と悩みながら場内を巡る人も見受けられました。青森の農・海産物が豊かなのはもちろん、料理を提供する出店者の方々のおかげでその魅力が何倍にもなっているのです。

また、青森の植物を用いて染めたストールや県産材の木工品、こぎん刺しなどの伝統工芸品を揃えた出展ブースも。金山焼きの皿づくりが体験できるワークショップでは、参加者が慣れない作業に悪戦苦闘しながらも、楽しそうに土に触れていました。中でも子どもたちに人気だったのが輪投げ。シールラリーで集めたシールを参加券に、県産品を賭けた輪投げにチャレンジ。商品が豪華ゆえに、一投一投に歓声があがる一幕も。その他にも地元産の野菜の販売や木製のキャンピングトレーラーの展示など、来場者の方々は思い思いにイベントを楽しんでいました。



TEAM KENSANZAI EN-MUSUBI



1. どこへ行っても人気の決め手くん。2. 金山焼がつくれるブースは大人も夢中に。3. 青森県らしくリンゴをはじめとする農産物加工品も多数。4. ㈱今井産業が制作した木製のキャーピングシェル。5. 県産材地産地消ガイドブックはバックナンバーも揃えて。6. 豪華賞品のある輪投げは会場内で最も熱気に溢れていました。

地元愛を育んでくれる大切な場

「県産品にこだわる出店者さんが青森にはたくさんいます。これはもっと一般の方々にも知ってほしいと思ったんです」と話すのはキーポイントホーム代表の阿保勝之さん。当初はユーザーや取引先を対象にした感謝祭として始まったイベントでしたが、一般客を受け入れるのは今回が初めて。様々な分野の県産品を楽しんでもらうことが、県産材に興味をもってもらう糸口になると考えています。県木住代表の佐藤さんは「我々のお客さんには青森へ関心を持つ人が多いです。住宅や木材という家づくりに偏ったものではなく、分野を超えた交流で繋がれば、県産品が好きな者同士で面白いことが生まれるかも」

と話します。今回のイベントでは出店者同士やお客さん同士が、自然と会話をする光景をよく見かけました。それはまさに「縁」が生まれた場面なのかもしれません。縁むす日は地元愛を育んでくれる大切な場になっていることでしょう。

NEXT... EN-MUSUBI

縁むす日 2025
6月1日(日)開催(予定)

【会場】青森市浪岡交流センター「あびねす」多目的広場

2024.6.2 IN APINNESS NAMIOKA



7. 県産材の積み木を楽しむエリアは子どもに大人気。8. なりきりチェンソーマンブースでは林業の魅力を PR。9. あおり藍の自然塗料を試し塗り体験。10. 県内外の出店者が集っているだけあってディスプレイも素敵。11. 人だけでなく犬にも優しい縁むす日。ペット連れのお客さんも多く見られました。12. 農家の方自ら新鮮な農産物を販売。13. 県産材の木工作品は暮らしを豊かにしてくれそう。14. 出店者とお客さんの距離が近いのもこのイベントの良さ。

EXHIBITION MEMBERS

[出店メンバー]

- | | |
|------------------|-----------------------|
| ■ 青森県林政課 | ■ 浅虫コリドー |
| ■ おおわに自然村生ハム工房 | ■ 陶芸教室ちゅうばち |
| ■ One. Natural | ■ あじゃら工房 |
| ■ ほたて漁師おうさか | ■ のみものや わんど |
| ■ (株)今井産業 | ■ Aiha |
| ■ くべる部 | ■ Bambooforest |
| ■ さとのはな | ■ SWEETS CAFE CORORON |
| ■ 岩木山麓ちいちゃん農園 | ■ musubi. |
| ■ ナカナカストア | ■ FREE |
| ■ 杉豊商店 | ■ 移動食堂 味里 |
| ■ Snow hand made | |

ORGANISER & SUPPORT

[企画運営]



- 主催：チーム県産材
(有限会社 キーポイントホーム・企業組合 県木住)
- 後援：青森県森林組合連合会
- 協力：青森県林政課
青森県木材協同組合

Aomori Wood Reform Event

変化する時代に合わせて、 シニア世代への新提案

2024 住まいとお庭のリフォームフェア
株式会社 今井産業

文・写真=小田切 孝太郎
text/photo:Kotaro Odagiri





製品の比較ができる ショールーム

建材やサッシなどの住宅資材の販売をメインに、設計や庭造りまで住宅に関連したサービスを展開している今井産業。同社のショールーム「虹いろの杜（もり）」には、住宅設備メーカー約30社の商品が常設展示されています。ショールームといえば商品をPRするためにメーカーが個々に設けるのが一般的ですが、ここでは複数の企業の商品を一度に見ることができます。トイレやキッチン、サッシや壁材などメーカーの垣根を超えた、ジャンルごとに分類された展示スタイルは珍しく、消費者目線で設備や商品を比較しやすいショールームになっています。

そのショールームを会場に今井産業が主催する「住まいとお庭のリフォームフェア」は、30年以上にわたり地域の人々に支持されてきた春と秋の恒例イベントです。当日は各メーカーの担当者による商品説明、リフォームの相談会や家づくりにまつわるセミナーのほか、豪華賞品の当たる抽選会や、歴代の社長が仕込むのが定番だというラーメンの振る舞いなども行われました。





シニア世代のニーズは 小さくて機能的な家

耐震や省エネなど、フェアでは毎回テーマが設けられます。今回は「50～60代からの家づくり」がテーマ。シニア層をターゲットに当てたのは今回が初めての試みです。ウッドショック以降、円安などの影響で資材の高騰も続き、2020年に比べると10%以上も住宅コストは上昇し、若い世代が家を建てるのが難しくなっているのが実情です。加えて今のシニア世代の人たちが若い時に建てた家が、リフォームを考える時期に差し掛かっています。子育てを終えて大きな家が必要ない、帰省しても実家に泊まることなく、などの生活スタイルの変貌も手伝って夫婦2人が暮らす家で十分というニーズが高まっています。

会場の中で注目を集めていたのが「1,500万円のセミオーダー住宅」を紹介するブースでした。寒冷地用エアコンや長期優良住宅の要件である耐震等級2級、断熱等級は4級という機能を備えた造りは、シニア世代のニーズに応えた設計です。セミオーダープランなら自分好みの間取りにでき、要望の多い暖かくてランニングコストを抑えた家づくりが実現可能です。

また、近年は相続や税金といった諸問題が家づくりのハードルになっています。今井産業では税理士やファイナンシャルプランナーと連携し、家づくりを進める前に必要な問題解決を図る相談会を実施。住宅に関する総合的なサポート体制を整え、安心して家づくりを進められる環境を提供しています。





in NIJIRO no MORI



暮らすということを サポートしたい

イベントでは同社が開発した世界特許の木質系軽量素材「e・wood+」を用いたトレーラーハウスが公開されたほか、トラックで運搬可能な木造コンテナハウスも販売されました。これらの取り組みは、シニア世代の大きな敷地を有効活用するアイデアとして期待されています。「人生100年時代、第二の人生を楽しむために老化は防げないけど健康寿命を長くすることは可能。家もそのためのひとつのツールに役立ててほしい」と社長の今井公人さん。今後は県産材を活用した店舗施設の普及やガーデニング商品の展開、地域の工務店と連携した住まいのメンテナンスまで、住宅に関する要望に何でも応えられる体制づくりを目指しています。暮らしに寄り沿ってくれるパートナーが身近にいれば、家づくりの選択肢は広がることでしょう。

「e・wood+」で製作された軽量で丈夫なトレーラーハウス。キャンプや車中泊はもちろんテレワーク用のコンパクトオフィスとしても活用できます。



CORPORATE DATA | 会社情報

株式会社 今井産業

青森県平川市新館藤山16-1

Tel:0172-44-2145 Fax:0172-44-2568

hp-info@imaisangyou.co.jp

<https://www.imaisangyou.com/>



日本が誇る名工・ 大室勝四郎が 手掛けた 天然青森ヒバ造り の五重塔

文=佐藤 史隆 写真・資料=合同会社ものの芽舎
text:Fumitaka Sato photo & data:Mononomesha

青森市桑原の青龍寺は、織田隆弘師により1982年に開かれた真言宗の寺院。院内には、青銅座像仏としては日本一の高さを誇る昭和大仏、そして高さ39.25メートルの五重塔が建立されています。この五重塔の初重内部の須弥壇（しゅみだん）には普賢菩薩、観世音菩薩、文殊菩薩、弥勒菩薩の四菩薩、壁面には真言八祖像が奉安。

五重塔の落慶（らっけい）は1996年と木造五重塔としては、京都の東寺、奈良の興福寺、香川の善通寺に次ぐ日本で4番目の高さで、京都以北では最大の木造五重塔です。



五重塔の初重内部



五重塔原寸図を引く大室勝四郎棟梁（青龍寺所蔵）

建

築を手がけたのは、大室勝四郎棟梁（1906－1998）が率いる青森市の大室建築です。勝四郎は当時、`西に西岡常一、東に大室勝四郎あり、と全国に腕前が知られた名工でした。青龍寺五重塔の基本設計に参考としたモデルは存在せず、強いて挙げるならば、勝四郎24歳の時に自身で作った模型に似ていると言われています。

なお、大室建築は、江戸時代創業の弘前藩お抱えの宮大工でもありました。天明元年（1781年）から弘前市で三代、青森市に移り現在の九代まで社寺建築を手掛けています。

こ

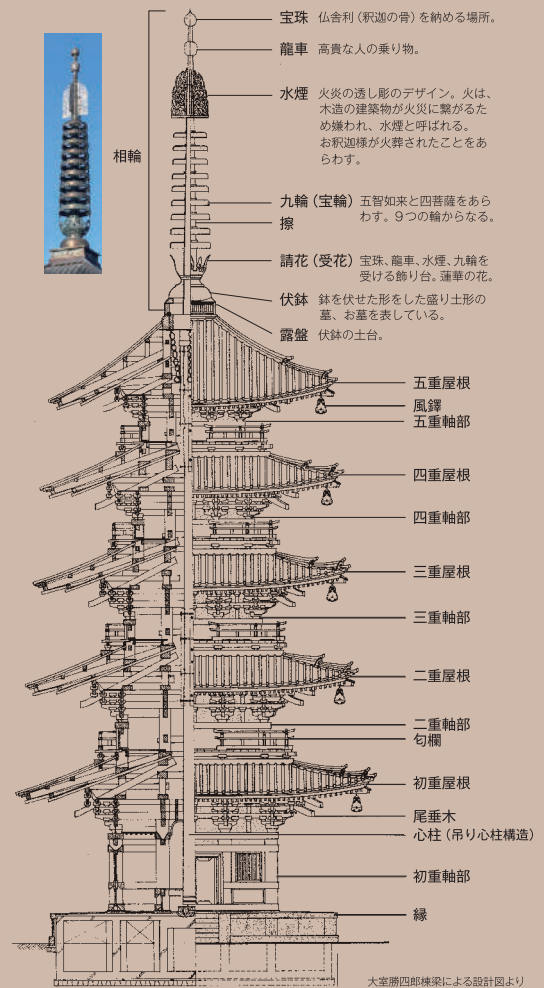
の五重塔について特筆すべきは、青森の寺院に、青森の大工により、全て青森ヒバを使って建てられたことです。使用したヒバは、東津軽郡蟹田宮林署轄の天然青森ヒバ。中でも建物の中心部の心柱（しんばしら）は、樹齢四百年以上の原木を津軽半島の山から伐り出した貴重なもの。林道のない奥山だったため、ヘリコプターで吊るして運ばれました。五重塔はもともと、釈迦の墓の塔婆が原型とされます。心柱は、その塔婆であり、構造においても意義においても`塔の中心、。塔の倒壊を防ぐ重要な役割を持ちます。青龍寺五重塔は「吊り心柱構造」という造りで、その最下部は礎石に接地していません。塔の四重目と五重目の中間と、五重目の土居上からの二か所で吊っているため、心柱が振り子の役割を果たし、地震や強風などによる揺れを吸収する免震構造となっています。



心柱を建てる様子（青龍寺所蔵）

建

立を発願した織田隆弘師は五重塔の完成を見ることなく遷化されましたが、三世の織田隆玄師（1946－2024）が父の遺志を継ぎ建立に尽力しました。生前、隆玄住職は、「青龍寺五重塔は、屋根のラインが実に美しいんです。ここにも大室棟梁の品性があらわれています」と話していました。五重塔の前には、大室勝四郎棟梁の銅像が立っています。共に苦労をしながら、一大霊場づくりに取り組んできた青龍寺の感謝の念は今もそこに。住職たちの思い、大室建築の技、そして青森ヒバの魅力が結集した青龍寺五重塔。50年後、100年後、200年後……時が流れるほどにその凄さが増してくることでしょう。



大室勝四郎棟梁による設計図より

落 慶：平成8年10月10日
資 材：天然青森ヒバ(約2,800石)
高 さ：39.25m
間 口：四間四面
安 置 仏：普賢菩薩、観世音菩薩、文殊菩薩、
弥勒菩薩、真言八祖像
設計施工：株式会社 大室建築



青銅座像では日本一の大きさを誇る
青龍寺の「昭和太公」

昭和太公 青龍寺

青森市大字桑原山崎45
Tel:017-726-2312 Fax:017-726-2124
<http://showa-daibutu.com/>



株式会社 大室建築

青森市岡造道3丁目7番5号
Tel:017-718-8018 Fax:017-718-8018
<https://www.oomurokentiku.com/>



抗菌しつかり。

天然しつとり、

こどもにあんしん

SAFEECO Natural wood paint

あおり藍から生まれた「抗菌できる自然塗料」

セフィーコ ナチュラルウッドペイントは、こどもの安心のために、
素材にこだわり天然の抗菌性をそなえた自然塗料です。

農業不使用で栽培される青森の地域ブランド「あおり藍」の葉から抽出した 100%
天然由来の抗菌消臭成分「あおり藍エキス」を有効成分とした世界で初めての木部
水性塗料です。成分は米油、えごま油、桐油など植物由来のものを使用し、石油系
の溶剤をつかっていないため、お子様やペットにもあんしんです。不快なニオイもなく、
素肌への不安もないため親子でたのしく DIY を楽しめます。



SOCIAL
PRODUCTS
AWARD
2024

ソーシャルプロダクツ・アワード2024において
「ソーシャルプロダクツ賞」を受賞



SAFEECO Natural wood paint 1 L
カラーバリエーション15色

[運営・販売元]

株式会社 小倉内装

〒030-0943 青森市幸畑阿部野 141-7
TEL017-738-8686 <https://safeeco.jp/>



SAFEECO for family smile

SAFEECOの売り上げの一部は、親子にやさしく、より暮らしやすい社会になるよう、青森の
子育てを支援する活動に寄付致します。親のこころのゆとりが子供への愛情につながり、
家族の笑顔が増えることを願っています。ご賛同いただけると幸いです。

photo : あおり藍畑



LIFESTYLE SQUARE
**NICO
STOCK**
Furniture



青森駅前「ニコニコ通り」
インテリアショップ



SERVICE

ライフスタイルのなかで“住”に関するアイテムを取り揃えた、
トータルコーディネートショップです。

独自にセレクトした家具や照明、カーテン、植物、雑貨まで
「毎日楽しく彩る」品を豊富に取り揃えております。

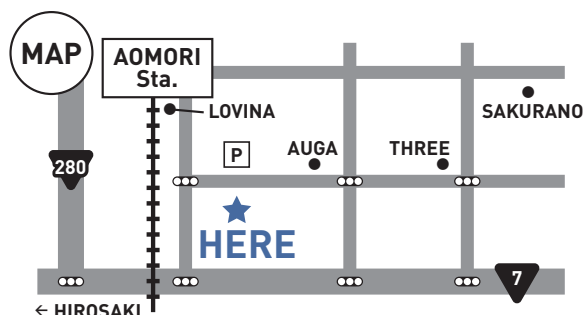
PRODUCT

家具・キッチン・洗面・照明・カーテン・植物・ウェア・
DIY商材(塗料・左官材・タイル)etc

NICOSTOCK Furniture

ニコストック ファニチャー

〒030-0862 青森市古川1丁目1-3 KOUICHI BLD
TEL 017-718-5184 <https://nicostock.com/>



県産材のことなら県木協

青森県木材協同組合

〒030-0151 青森市大字高田字川瀬104-1 TEL017-739-8761 FAX017-739-8749

会 社 名 称

所 在 地

T E L

F A X

<東青地区>

齋藤木材株式会社	〒038-0002	青森市沖館 3-10-1	017-781-1148	017-781-1268
福士木材株式会社	〒030-0901	青森市港町 3-11-21	017-741-6438	017-741-6439
丸重木材工業株式会社	〒038-0059	青森市大字油川字柳川 1-7	017-788-3231	017-788-7203
株式会社盛興業社製材所	〒030-0852	青森市大字大野字前田 63-2	017-739-6267	017-739-6257
工藤秀製材所	〒030-1273	青森市大字左堰字大科 4	017-754-3552	017-754-3552
有限会社前田林業	〒030-1304	外ヶ浜町字蟹田南沢山口 25-1	0174-22-2350	0174-22-3313

<西北五地区>

株式会社生松製材所	〒038-3503	鶴田町大字鶴田字生松 108-1	0173-22-4045	0173-22-2583
株式会社成田林業土木	〒037-0302	中泊町大字薄市字沖原 115-101	0173-58-2842	0173-58-3017
有限会社今泉製材所	〒037-0301	中泊町大字今泉字神山 51	0173-58-2493	0173-58-2030
有限会社浜田製材所	〒037-0403	五所川原市十三通行道 103-108	0173-62-2145	0173-62-3870
笹山木材株式会社	〒037-0405	五所川原市脇元赤川 257-2	0173-62-2840	0173-62-2509
木村産業有限会社	〒037-0404	五所川原市磯松唐皮 31	0173-62-3425	0173-62-3571
中島製材所	〒037-0403	五所川原市十三字通行道 103-82	0173-62-2169	0173-62-2172
有限会社藤田製材所	〒038-2806	つがる市木造越水長谷川 54-5	0173-26-2051	0173-26-4380
アジモク	〒038-2761	鯉ヶ沢町大字舞戸町字東阿部野 114-6	0173-72-3242	0173-72-5757
株式会社熊谷木材	〒038-2207	深浦町大字黒崎字小浜 184-1	0173-78-2434	0173-78-2435
株式会社なかにし	〒037-0202	五所川原市金木町芦野 365-384	0173-53-3222	0173-52-2236

<中弘南黒地区>

日東産業株式会社	〒038-1144	田舎館村大字前田屋敷字村元 110	0172-58-2855	0172-58-2854
有限会社協大木材	〒036-0343	黒石市大字浅瀬石字山辺 251-19	0172-53-4070	0172-52-4911

<下北地区>

工藤林業株式会社	〒039-5201	むつ市川内町館山下 131-1	0175-34-0107	0175-34-0108
有限会社島木材工業	〒039-4601	大間町大字大間字蛇浦道 11-7	0175-37-2071	0175-37-3926
有限会社村口産業	〒039-4502	風間浦村大字易国間字大川目 6-7	0175-35-2147	0175-35-2191
有限会社川崎造材	〒039-4401	むつ市大畑町湯坂下 37-7	0175-34-2182	0175-34-5688

<十和田上北地区>

十和田燐寸軸木株式会社	〒034-0051	十和田市大字伝法寺字平窪 78-1	0176-28-2551	0176-28-2560
株式会社わかもと	〒034-0051	十和田市大字伝法寺字大窪 92-5	0176-28-2244	0176-28-3568
有限会社山内製材所	〒039-2129	おいらせ町中平下長根山 1-824	0178-56-2746	0178-56-4622
青森木材防腐株式会社	〒039-2805	七戸町字原久保 95-37	0176-62-6464	0176-62-6465
加賀木材工業株式会社	〒039-2826	七戸町字中野 50	0176-68-2033	0176-68-4539
有限会社米田製材所	〒039-2372	六戸町大字折茂今熊 247-370	0176-23-2181	0176-23-5897

<三八戸地区>

南部木材株式会社	〒039-1161	八戸市大字河原木字海岸 18-5	0178-21-2310	0178-20-4336
八戸チップ工業株式会社	〒039-1108	八戸市大字上野字堀端 21-1	0178-27-3074	0178-27-1433
株式会社ツガイヤマジュウ	〒039-3124	野辺地町字白岩 37-25	0175-64-2332	0178-62-5151
マツハン林産株式会社	〒039-0201	田子町大字田子字野々上 34	0179-32-2367	0179-32-3419
株式会社山口製材所	〒039-0612	南部町大字剣吉字大坊 6-20	0178-75-0065	0178-75-0019
山王林産有限会社	〒039-0113	三戸町大字目時字中野 107	0179-22-2040	0179-22-2878
株式会社林材センター	〒039-1161	八戸市大字河原木字海岸 18-5	0178-32-0240	0178-32-0226
株式会社曽我産業	〒031-0114	八戸市南郷大字中野字丑木沢 41-7	0178-82-2347	0178-82-2361
株式会社丸勝木材	〒031-0804	八戸市青葉 2-12-14	0178-43-4007	0178-47-9699
王子木材緑化株式会社 八戸営業所	〒031-0072	八戸市城下 1-1-9	0178-38-6388	0178-38-6389

青森県製材JAS認証工場

認定番号 JLIRA	認 定 工 場 名	工場所在地／ TEL・FAX
B-10-02	齋藤木材株式会社 製材工場	〒038-0002 青森市沖館三丁目 10-1 TEL 017-781-1148 FAX 017-781-1268
B-10-06	株式会社わかもと 製材工場	〒034-0051 十和田市大字伝法寺字大窪 92-5 TEL 0176-28-2244 FAX 0176-28-3568
B-10-07	上北森林組合 木材加工センター	〒034-0301 十和田市大字奥瀬字生内 268-1 TEL 0176-72-3111 FAX 0176-72-3114
B-10-12	三八地方森林組合 木材加工センター	〒039-1528 三戸郡五戸町大字浅水字陣馬 92-2 TEL 0178-67-2003 FAX 0178-61-8639
B-10-13	笹山木材株式会社 製材工場	〒037-0405 五所川原市脇元赤川 257-2 TEL 0173-62-2840 FAX 0173-62-2509
B-10-14	木村産業有限会社 製材工場	〒037-0404 五所川原市磯松唐皮 31 TEL 0173-62-3425 FAX 0173-62-3571
B-10-17	東通村森林組合 木材加工センター	〒035-0005 下北郡東通村大字田屋字上流 66-1 TEL 0175-34-0946 FAX 0175-34-0947
B-10-18	有限会社島木材工業 製材工場	〒039-4601 下北郡大間町大字大間字蛇浦道 11-7 TEL 0175-37-2071 FAX 0175-37-3926
B-10-20	株式会社なかにし 製材工場	〒037-0202 五所川原市金木町芦野 365-384 TEL 0173-53-3222 FAX 0173-52-2236

製材等JAS第三者検査機関あおもり

〈青森県連絡先〉青森県木材協同組合

〒030-0151 青森市大字高田字川瀬 104-1 TEL. 017-739-8761 FAX. 017-739-8749



あおもり産木材地産地消ガイドブック 2024

青森の木と暮らす

Made in Aomori House

vol.15

2025年3月12日発行

発行所

青森県木材利用推進協議会（青森県木材協同組合内）
〒030-0151 青森市大字高田字川瀬 104-1 TEL017-739-8761

編集・デザイン・印刷

有限会社 岩田広告社

監修

青森県農林水産部 林政課 林産振興グループ

ライター

小田切 幸太郎
井藤 雪香
工藤 健
吉田 真緒
栗本 千尋
佐藤 史隆（合同会社ものの芽舎）

撮影

松川 雄史（株式会社フォトセンター惣門）
今井 聡（次元 fotografiar）
山本 東（MORE BRANDING）

協力

六戸町
株式会社 八洲建築設計事務所
昭和大仏 青龍寺

※本誌掲載の写真・記事・図版等の無断複写・複製・転載・引用を固く禁じます。

青森県優良住宅協会



私たちは真に優良な木造住宅の
普及促進をめざす
地元工務店の団体です。



- | | | |
|---------------|------------------|-----------------|
| ■ (株) 垂細垂建設 | ■ (有) 家口建設 | ■ (株) 石豊建設 |
| ■ タカヤマホーム(株) | ■ (株) 柏崎組 | ■ (有) 丸二建設 |
| ■ (有) マツノホーム | ■ (株) 協和 | ■ (株) てる設計 |
| ■ ワコウ建設(株) | ■ (株) 菊池組 | ■ 佐々富建設 |
| ■ (株) リアルウッド | ■ (株) 黒田建設 | ■ (株) 蹴和建設 |
| ■ (株) 今 工務所 | ■ (株) 黄金工務店 | ■ (株) セントラルホーム |
| ■ (株) 西村組 | ■ (株) 齋米建設 | ■ (株) 大室建築 |
| ■ (株) 小嶋建設 | ■ (有) 齊藤建設 | ■ (株) Z-Life |
| ■ (株) 三浦組 | ■ (株) 高松工業 | ■ (株) 北三住建 |
| ■ (有) 舩舘工務店 | ■ ユネストホーム(株) | ■ 小野住建 |
| ■ 丸喜(株) 齋藤組 | ■ (株) 鳥谷部建設 | ■ (有) キーポイントホーム |
| ■ (有) 大平建設 | ■ 成田住建 | ■ (株) 鶴谷建設 |
| ■ (株) 喜多山工務店 | ■ (有) 林 工務店 | ■ (有) 一戸建設 |
| ■ 日野建ホーム(株) | ■ (株) 箱田住宅工業 | ■ (有) 森工務店 |
| ■ (株) 伊藤光建設 | ■ (株) プライムハウジング | ■ (株) キムコーハウジング |
| ■ (株) あさひほうむ | ■ (有) 三浦建設 | ■ (株) 丸章工務店 |
| ■ イシドヤホーム(株) | ■ (株) メイクホーム | ■ 高山建築 |
| ■ 建築工房アルファ(株) | ■ (株) ヤマノアーキデザイン | ■ (株) fukuro |
| ■ (株) 長内建築事務所 | ■ (有) 高森ホーム | ■ 武匠 |
| ■ (有) 小田桐住建 | ■ (有) 山中技建 | ■ (株) トロワデザイン |
| ■ (有) かわさき住宅 | ■ (有) 心 工務店 | ■ グレイズ建築(株) |

＜連携団体＞ ■ 一般社団法人 JBN・全国工務店協会 ■ 一般社団法人 全国木造建設事業協会

〔協会事務局〕〒036-8061 青森県弘前市神田2丁目3-12 株式会社石郷岡内
TEL0172-35-2100 FAX0172-35-2135

青森の住まいにあおもりのあかり

AOMORI no AKARI

youna
ような

雲のような…優しさのような…
作り手の「想い」と「時」を重ねた手作りの明かり
明かり、なのにふわふわの形。まるで雲のようなランプシェード。
やわらかな紙を、重ねて貼って、重ねて貼って…
ひとつひとつ手作りで仕上げた、「想い」と「時」を重ねた優しい明かりです。

※YOUNAはひとつひとつ手作りの為、形や大きさ等は製品により異なります。



Vidro

津軽ビードロのあかり



Kumiko

津軽伝統組子のあかり



株式会社



ライティングプロジェクト

株式会社 北電 照明事業部 ライティングプロジェクト

あかりのショールーム

完全予約制

☎ 0120-160-062

青森市三内字里見92-4 TEL017-766-7818 <http://www.hoku-den.co.jp/>

